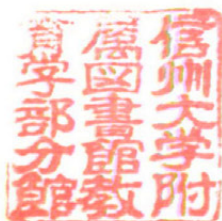


平成2年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1991

長野県更埴市教育委員会



平成 2 年度

更埴市埋蔵文化財調査報告書

1 9 9 1

長野県更埴市教育委員会

序

昭和56年から開始された史跡森將軍塚古墳保存整備事業も、来年度をもって完成の運びとなりました。さらに、そのふもとは（仮称）県立歴史館の建設も決まり、長野県における歴史文化の拠点となることと思います。

また、更埴市は皆様ご承知のとおり、埋蔵文化財の多い地域であります。高速交通網の整備に関連して、遺跡の発掘調査も急激に増えているのが現状です。こうした調査で検出された遺構・遺物はまさに歴史文化そのものであり、これらが語りかける歴史的意義には計り知れないものがあります。

先人たちの残していった貴重な文化遺産を後世の人達に伝えることは現在に生きる私達の責務であり、本報告書が、埋蔵文化財の保護並びに更埴市の歴史を知る上での一助になれば幸いです。

最後になりましたが、調査の実施にあたり各工事関係者のみなさまには、多大なご協力とご理解を頂きましたことに対し、深く感謝申し上げます。

平成3年3月

更埴市教育委員会

教育長 安藤 敏

例 言

- 1 本書は、更埴市教育委員会が平成2年度に実施した埋蔵文化財の調査報告書である。
- 2 調査は、更埴市教育委員会が主体となり、事務局は社会教育課文化係が担当した。

更埴市教育委員会事務局

教育長 安藤 敏

社会教育課長 石坂勝男

文化係長 西沢秀文

文化係 鈴木一郎 矢島宏雄 佐藤信之 青木猛治 山根洋子
花岡裕子

- 3 調査担当者は、文化係担当職員があたり、調査員・調査補助員・作業員を募り、調査を実施した。また、必要に応じて専門家及び研究者等の指導・助言を得て行った。
- 4 本書は、調査員・調査補助員・作業員等による整理調査を経て、各調査担当者が執筆して作成した。なお、発掘調査のうち一部については、本書とは別冊で報告したものがある。
- 5 本書に掲載した位置図は、更埴市地形図10,000分の1を使用した。
- 6 本書中の方位は、真北を示している。
- 7 調査の実施にあたっては、調査基準点の正確な位置を知るために測量業者に委託し、平面直角座標系第Ⅷ系座標値を求めた。
- 8 各調査の出土遺物・実測図・写真等の全ての資料は、更埴市教育委員会に保管されている。資料には各調査毎に調査記号を付し、整理保管されている。

目 次

例言・目次	
平成2年度埋蔵文化財調査概要	1
1 諏訪南沖遺跡 発掘調査	6
2 城ノ内遺跡 発掘調査	27
3 舞台遺跡他 発掘調査	29
4 南沖遺跡他 発掘調査	31
5 荒井遺跡・五輪堂遺跡 発掘調査	35
6 琵琶島遺跡 発掘調査	37
7 屋代寺跡 発掘調査	41
8 森将軍塚古墳 発掘調査	57
9～20 試掘調査	61
9 琵琶尻遺跡 10横まくり遺跡 11埜遺跡 12更埴条里水田址	
13上人塚遺跡 14中ノ宮遺跡 15唐崎遺跡 16更埴条里水田址	
17諏訪南沖遺跡他 18北野遺跡 19屋代遺跡群 20赤坂遺跡	
21～27 立会調査	74
21窪河原遺跡 22舞台遺跡 23南沖遺跡 24更埴条里水田址	
25北なめり石遺跡 26中島遺跡 27城ノ内遺跡	

平成2年度埋蔵文化財調査概要

平成元年度に、千曲川西岸から調査が開始された長野自動車道建設に伴う市内の発掘調査も、今年度から川東地区に移り、インターチェンジ付近の調査が始められた。高速道路の建設に関連する民間の開発事業は、第1の山場を越えた感はあるが、インターチェンジ周辺では、倉庫など流通に関係した施設の建設が始まり、第2の山場が来るものと思われる。また、来年度から上信越自動車道の調査が開始されるため、今後これに伴う代替地や国道の拡幅など、公共事業の調査も増大することが予想される。

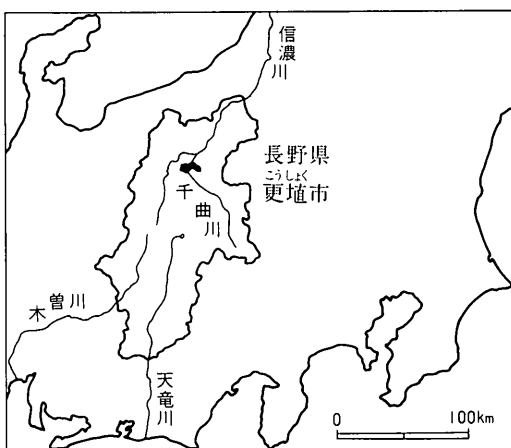
本年度更埴市において調査された遺跡は28遺跡であり、内訳は発掘調査8件、試掘調査12件、立会調査8件であった。

発掘調査は公共事業4件、民間事業4件で、直接自動車道に関係するものはなかった。県営ほ場整備事業に伴って実施された舞台遺跡以外は、川東地区での調査であり、川東に集中する傾向は変わらない。また、昭和56年から始まった史跡森將軍塚古墳の保存整備事業は、来年度を持って完成予定となった。

試掘調査は公共事業5件、民間事業7件が実施されており、昨年度に比べ倍増している。公共事業に伴って実施された試掘調査のうち、2件は来年度に発掘調査が必要となった。中でも県立歴史館建設用地の調査は、更埴市ではかつてない大規模な調査であり、(財)長野県埋蔵文化財センターから調査研究員の派遣を受けて実施することとなった。民間事業のうち、4件は宅地造成によるものである。宅地造成の場合、1m程の盛土で実施される事が多く、包含層が地表下1m前後にある更埴市では、工事による掘削が包含層に達しないため、発掘調査を実施するのが難しいのが現状である。

立会調査は公共事業2件、民間事業6件であった。

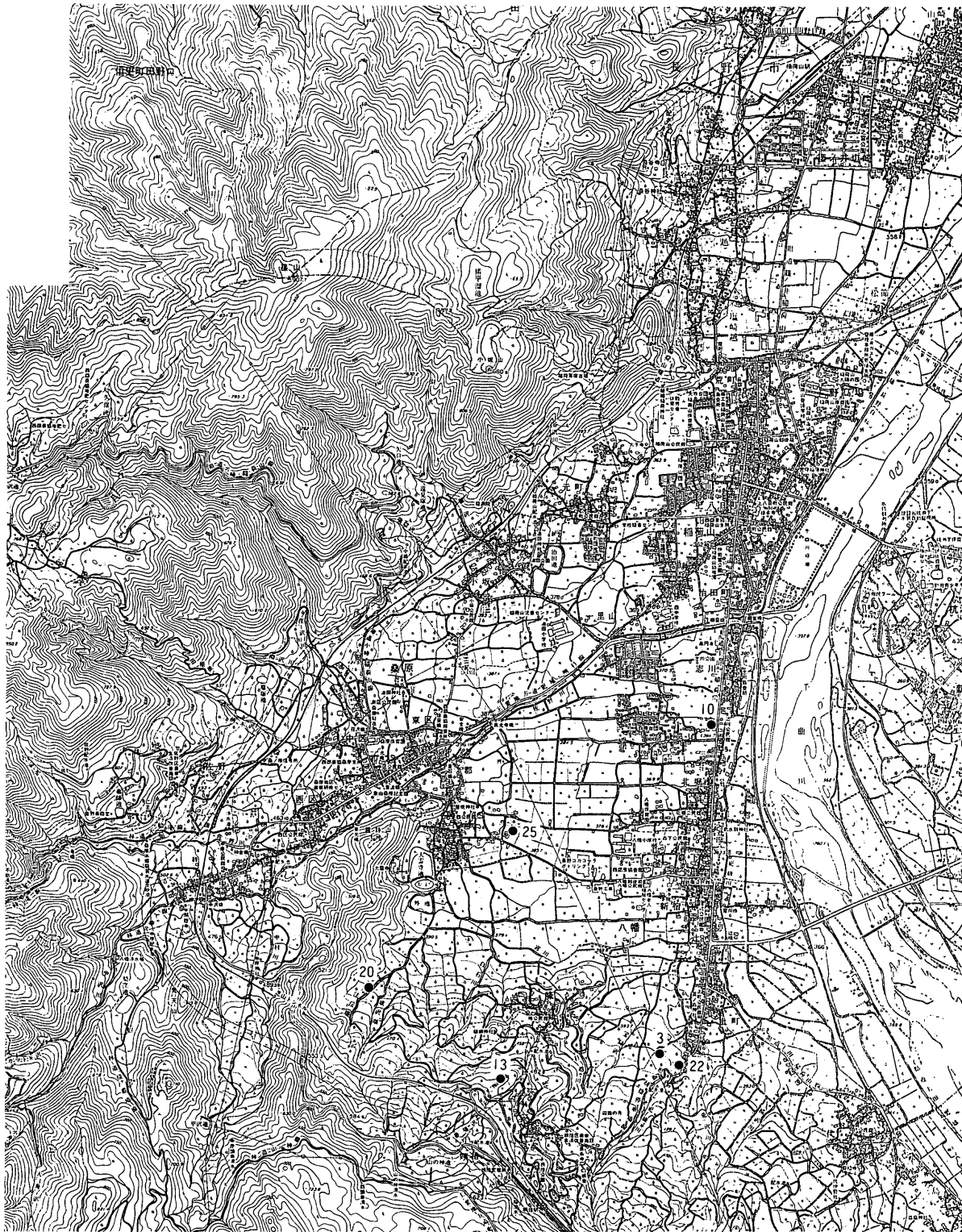
第1図
長野県更埴市位置図



第1表 平成2年度調査一覧表

番号	遺跡名	所在地	原因事業	原因者
〔発掘調査〕				
1	諏訪南沖遺跡	粟佐	公共－市道拡幅事業	更埴市
2	城ノ内遺跡	屋代	民間－工場建設事業	長野電子工業(株)
3	舞台遺跡他	八幡	公共－県営ほ場整備事業	長野地方事務所
4	南沖遺跡他	粟佐	公共－警察署建設事業	長野県警察本部
5	荒井遺跡	屋代	民間－鉄塔建設事業	中部電力(株)
6	琵琶島遺跡	小島	民間－ホテル建設事業	永山建設(株)
7	屋代寺跡	雨宮	民間－倉庫建設事業	岩佐 勝
8	森将軍塚古墳	森	公共－史跡整備事業	更埴市
〔試掘調査〕				
9	琵琶尻遺跡	粟佐	公共－国道拡幅事業	建設省
10	横まくり遺跡	八幡	民間－倉庫・事務所建設事業	(株)川本第一製作所
11	埜遺跡	土口	民間－宅地造成事業	西沢総合土地(株)
12	更埴条里水田址	屋代	公共－県立歴史館建設事業	長野県（文化課）
13	上人塚遺跡	八幡	民間－ほ場整備事業	宮坂民夫
14	中ノ宮遺跡	森	民間－宅地造成事業	(有)キザキ商事
15	唐崎遺跡	雨宮	民間－工場建設事業	(有)中島製作所
16	更埴条里水田址	屋代	民間－宅地造成事業	(有)キザキ商事
17	諏訪南沖遺跡他	粟佐	公共－市道建設事業	更埴市
18	北野遺跡	雨宮	公共－県道建設事業	更埴建設事務所
19	屋代遺跡群	雨宮	民間－宅地造成事業	(有)共栄開発
20	赤坂遺跡群	雨宮	公共－工業団地建設事業	更埴市
〔立会調査〕				
21	窪河原遺跡	雨宮	民間－鉄塔建設事業	中部電力(株)
22	舞台遺跡	八幡	民間－宅地造成事業	(有)アカサワ
23	南沖遺跡	杭瀬下	公共－駐車場建設事業	更埴市
24	更埴条里水田址	屋代	民間－アパート建設事業	戸矢崎雅彦
25	北なめり石遺跡	八幡	民間－工場建設事業	宮後電子(株)
26	中島遺跡	寂蒔	民間－共同住宅建設事業	山本興業(株)
27	城ノ内遺跡	屋代	民間－住宅建設事業	中沢智明
〔勸長野県埋蔵文化財センター〕				
28	窪河原遺跡	雨宮	公共－高速道路建設事業	日本道路公団

調査期間	調査面積	調査費用	備考
H 2. 4. 23～6. 13	1,000㎡	2,654,534円	
H 2. 6. 18～20 10. 11～20	500㎡	1,120,000円	
H 2. 6. 22～8. 12	2,000㎡	5,200,000円	一部国・県補助事業
H 2. 8. 17～10. 13 11. 5～12. 5	1,700㎡	9,100,000円	
H 2. 10. 13～20	140㎡	770,000円	
H 2. 10. 29～31	110㎡	300,000円	
H 3. 3. 18～31	180㎡	380,000円	
H 2. 7. 30～8. 18	50㎡	50,000,000円	第10年次調査及び保存整備
H 2. 6. 4	トレンチ 3 ヶ所	重機	
9. 28	トレンチ 2 ヶ所	重機	
10. 11	トレンチ 3 ヶ所	重機	
10. 11～12	トレンチ 5 ヶ所	92,700円	平成 3 年度発掘調査予定
10. 31	トレンチ 1 ヶ所	重機	
11. 9	トレンチ 2 ヶ所	重機	
11. 13	トレンチ 2 ヶ所	重機	
11. 30	トレンチ 2 ヶ所	重機	
12. 13	トレンチ 1 ヶ所	36,050円	
12. 13	トレンチ 3 ヶ所	36,050円	平成 3 年度発掘調査予定
H 3. 1. 21	トレンチ 2 ヶ所	重機	
3. 8	トレンチ 5 ヶ所	41,200円	
H 2. 4. 4, 9			工事实施
7. 18			工事实施
9. 28			工事实施
10. 2			工事实施
10. 6			工事实施
12. 19			工事实施
H 3. 3. 22			工事实施
H 2. 6. 6～6. 15 10. 22～12. 25	5,500㎡		中世 土坑・墓・溝 他



第2図 調査位置図



(1 : 30,000)

1 諏訪南沖遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 すわみなみおき 諏訪南沖遺跡（市No.28-9 調査記号SMO）
- 2 所在地及び土地所有者 長野県更埴市大字粟佐字諏訪南沖1242-1
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び事業者 公共事業＝市道拡幅（3,790m²）
事業者 更埴市
- 4 調査内容 発掘調査（1,000m²）
- 5 調査期間 現場調査 平成2年4月23日～同年6月13日
- 6 調査費用 2,654,534円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査員 笹澤正史 駒澤大学学生
参加者 市川陸雄 岡田栄子 金田良一 久保啓子 小林千春
小林芳白 佐々木佳子 白石正生 高野貞子 村山 豊
山田洋子
- 8 種別・期間 集落址・水田址＝古墳時代～平安時代
- 9 遺構・遺物 古墳時代＝住居址2棟
平安時代＝住居址10棟 水田址
出土遺物＝土器片 コンテナ15箱
和同開珎 1枚

II 調査の経過

平成2年度事業として市道粟佐橋線の拡幅が計画された。当該地は諏訪南沖遺跡に含まれており、昭和63年（1988）に市道粟佐橋線と国道18号線の交差点部分の立会調査を実施した際、埋蔵文化財の包蔵が確認されていたため埋蔵文化財保護についての協議を進めた。平成2年1月16日、建設予定地内の試掘調査を実施した結果、東側では集落址、西側では水田址の存在を確認したため、発掘調査を実施することとなった。調査地は既存の市道であり、通行止めとすることは困難なため、まず南側車線の調査を行い、調査が完了してから北側車線の調査を行うこととした。現場調査は平成2年4月23日に開始し、6月13日に完了した。また整理作業は平成3年度に行う予定である。

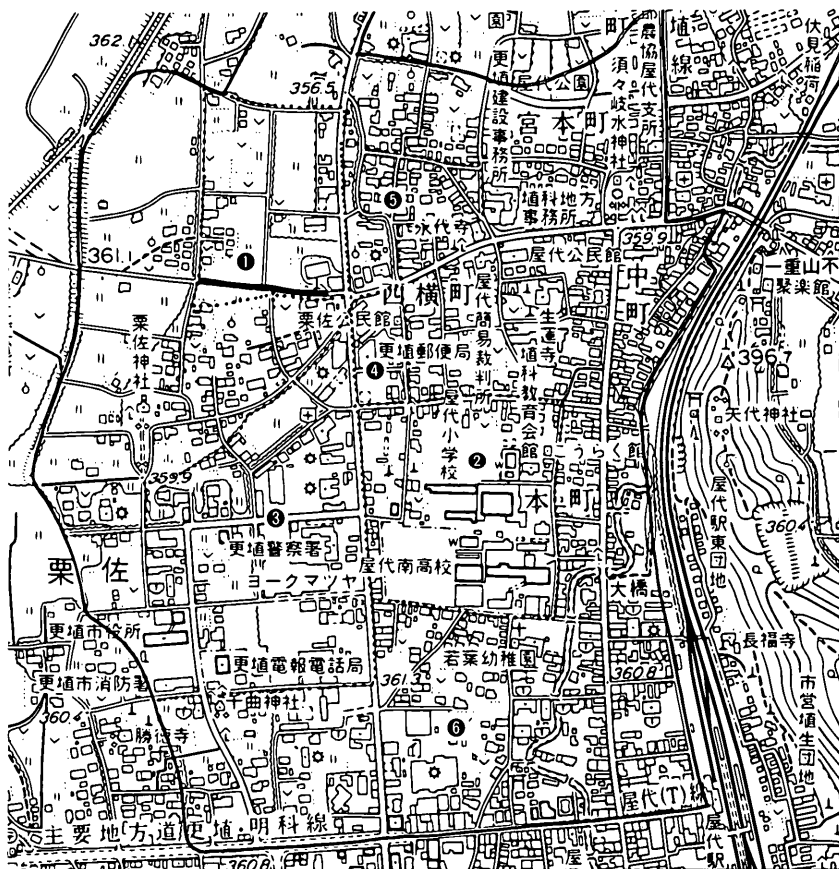
III 調査日誌

- 4月23日 調査開始、試掘トレンチを掘り下げ、包含層を確認。
- 4月24日 南地区より重機を入れ包含層まで掘り下げ、遺構検出を行う。
- 4月27日 住居址と思われる落ち込み検出、夜間の安全確保のため、安全燈用の仮設電気設置。
- 5月2日 住居址の掘り下げ開始。
- 5月8日 掘り下げを続けるが、切り合い、攪乱が多く明確にならない。
- 5月14日 重機を入れて調査区の拡張を行う。
- 5月16日 市建設課・業者・市教育委員会により今後の調査について協議を行い、東側部分の調査を先行することとなる。
- 5月19日 次週より工事が再開されるため実測を行い、調査区東側の調査は完了とする。
- 5月21日 測量業者による基準杭設定。
- 5月29日 道路南側部分の調査はすべて完了したが、工事が遅れており北側部分の調査に入れないため、しばらく調査を休止とする。
- 6月4日 調査再開、北側部分に重機を入れ掘り下げ。
- 6月7日 12号住居址覆土より和銅開珎出土。
- 6月13日 最後に残った住居址の実測を行い、調査完了とする。

IV 遺跡の環境

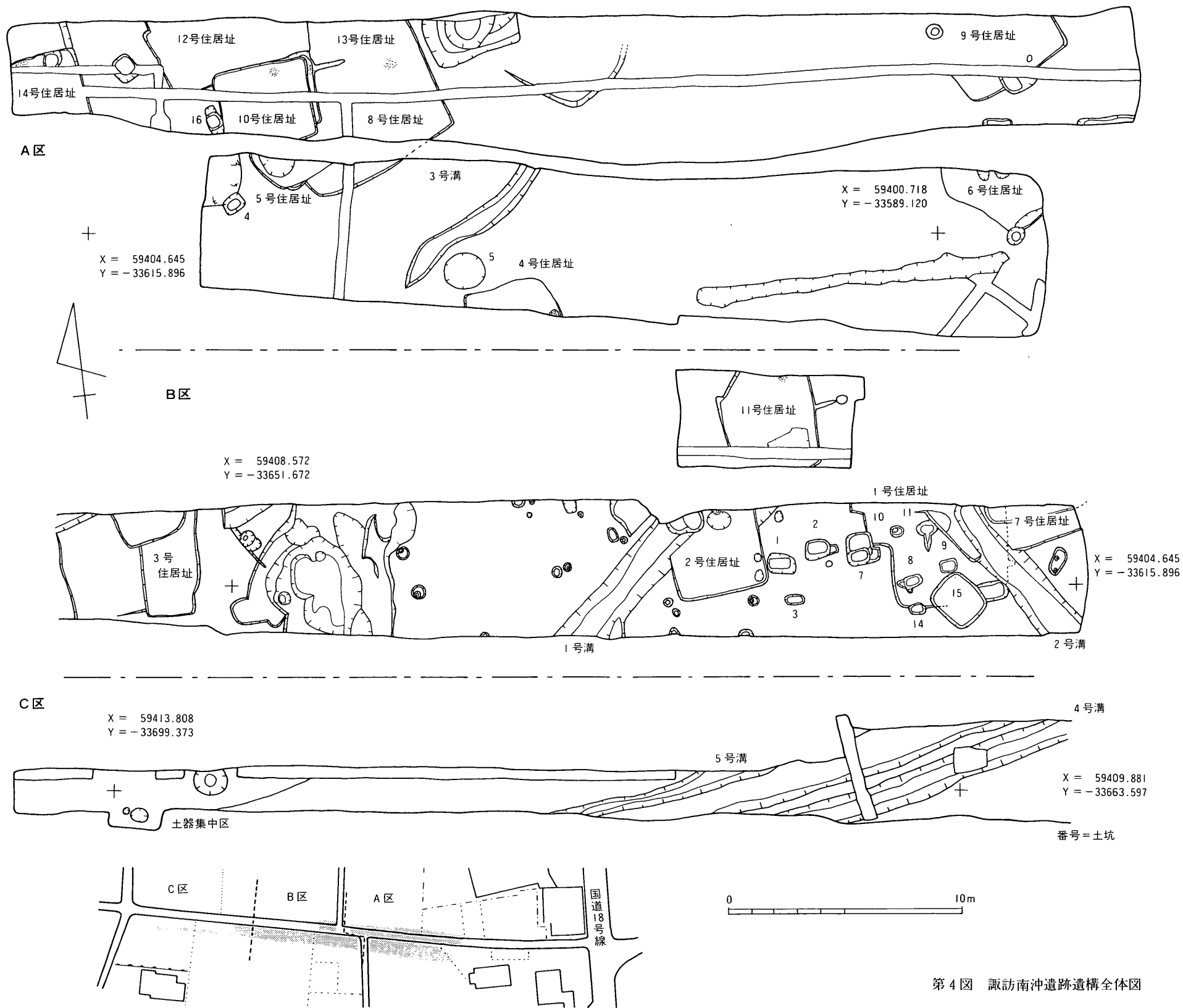
諏訪南沖遺跡は、更埴市大字粟佐字諏訪南沖に位置し、大きく粟佐遺跡群として包括することができる。遺跡群は北流する千曲川が善光寺平に入り、その流れを北東へと変える屈曲部の右岸に形成された自然堤防上に展開しており、東西0.5km、南北1kmほどの広がりを持っている。諏訪南沖遺跡はその北西端を占めていて、標高360m前後となる。今回の調査地は自然堤防から沖積地にかかる部分に当たり、自然堤防上は畑地、沖積地は水田として利用されている。

遺跡群内ではこれまでに、五輪堂遺跡・南沖遺跡・戸崎遺跡・北村遺跡の調査が行われており、200棟を超える竪穴住居址の他、掘立柱建物址など多数の遺構が検出されている。これらの調査により、弥生時代から中世に至る大集落址であることが確認されている。また、遺跡の南約200mには式内社である粟佐神社が存在しており注目される。



第3図
遺跡位置図

1. 諏訪南沖遺跡
2. 五輪堂遺跡
3. 南沖遺跡
4. 戸崎遺跡
5. 北村遺跡
6. 粟佐遺跡群



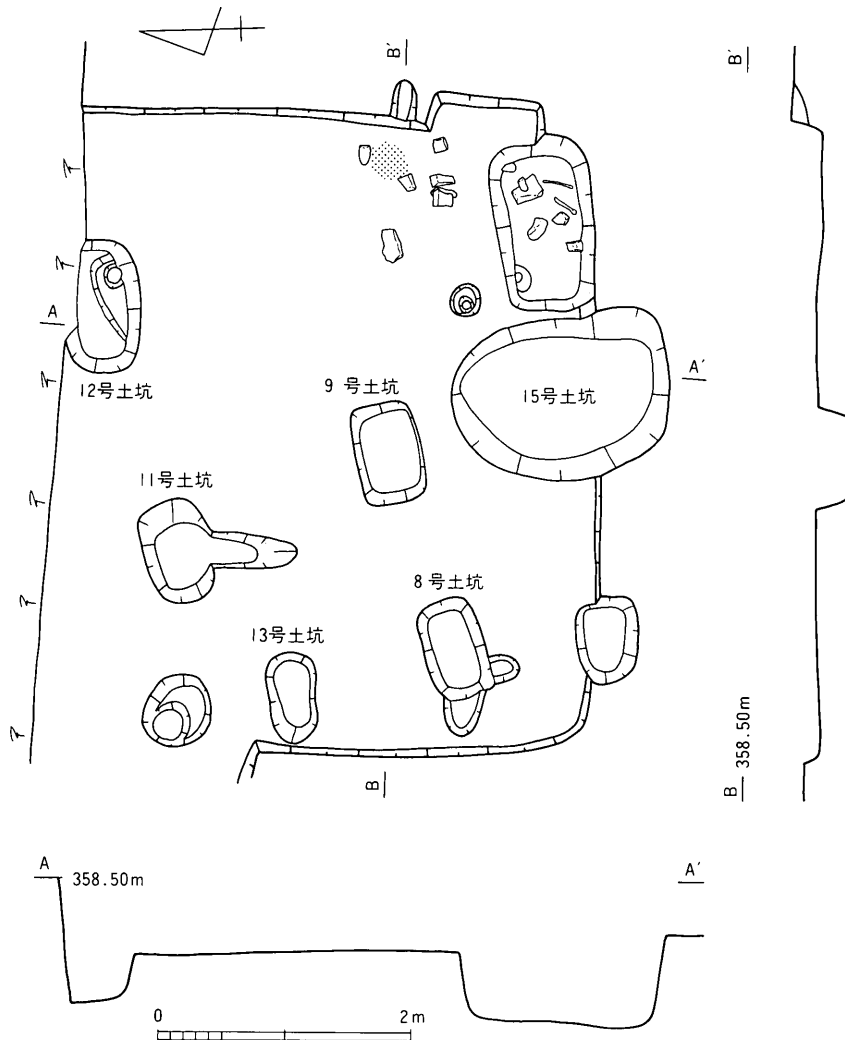
第4図 諏訪南沖遺跡遺構全体図

V 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、古墳時代の住居址2棟、平安時代の住居址10棟・水田址であったが、調査地が道路敷であるため埋設物等による攪乱が激しく、また、調査の幅が狭いため部分的にしか検出できなかった遺構が多い。

1号住居址

(第5図、図版1・5・8・9) 調査区南側中央部分から検出された住居址で、北側は道路中央部分となり調査できなかった。また、北西隅は住居址に切られており、南壁と床面は多数の土坑に切られている。



第5図 1号住居址

規模は東西は5.2mほどの方形が推測され、N-95°-Eに主軸を持つ。壁高は最大25cmを測ることができ、カマドは東壁南寄りに作られている。良く焼けた火床の周囲には炭化物が広がり、カマドの芯に利用された石が散在しているが、原形をとどめていない。南東隅に掘られた土坑は深さ約25cmで、骨片なども出土しているが、カマドに使用されたと思われる焼け石が出土していることから、住居址に付属するものと思われる。

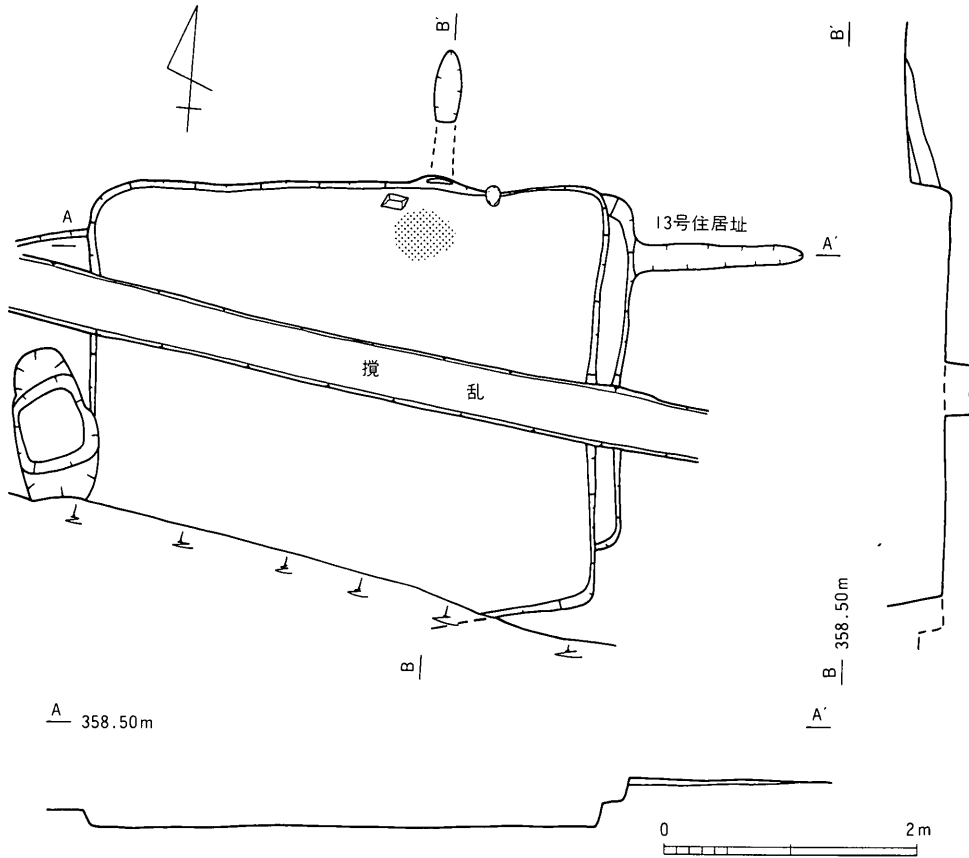
出土遺物は少なく小破片が多い。1は内外面黒色処理された小形の椀で、高台は垂直に立ち上がる。2・3は灰釉陶器の椀で、口径に対して器高が大きく口縁部が直線的に開く。2は外面の削りが粗く、釉は漬け掛けで、3はハケ塗りである。4は土師質の脚部で、同様のものが長野市松代の村北遺跡より出土している(註1)。村北遺跡の資料は、浅い罏釜状の土器に3足が付けられたもので、内面が黒色処理されており、香炉の一種と考えられている。5は鉄器であるが、明確な刃部が認められない。先端が不整形であるが、肉眼の観察では欠損部とは考えられない。6は銅椀と思われる破片で、体部から口縁部へ進むにしたがって、わずかに厚くなる。

10号住居址

(第6図、図版1・6・8) 調査区北側中央部分から検出された住居址で、南側は道路中央部分となり調査できなかった。また、中央部分は水道管の埋設により破壊されており、東壁は13号住居址によって切られている。

規模は東西4m、南北3.5mの長方形で、主軸をN-5°-Wに持つ。壁面はほぼ垂直に立ち上がっており、最大壁高は最大35cmを測ることができる。カマドは北壁東寄りに作られており、良く焼けた火床の両側には、カマドの袖に使用された石が残っている。煙道は1mほど北に延びている。床面は平坦で良く締まっていた。

出土遺物は須恵器大甕や土師器の甕の破片もわずかに含まれていたが、多くは什器であった。1～5は内面黒色処理された杯で、底部は回転糸切りとなる。1には放射状の暗文が施されている。6・7は土師器の椀で、6が底部に比べ口径が小さいのに対して、7は口径が大きい。8は須恵器の杯で、体部は直線的に開き、底径に対して口径が大きい。還元が良くないため灰褐色となる。9は須恵器長頸壺の頸部で、朝顔状に開いた頸部から垂直に立ち上がり、口縁端部に至る。



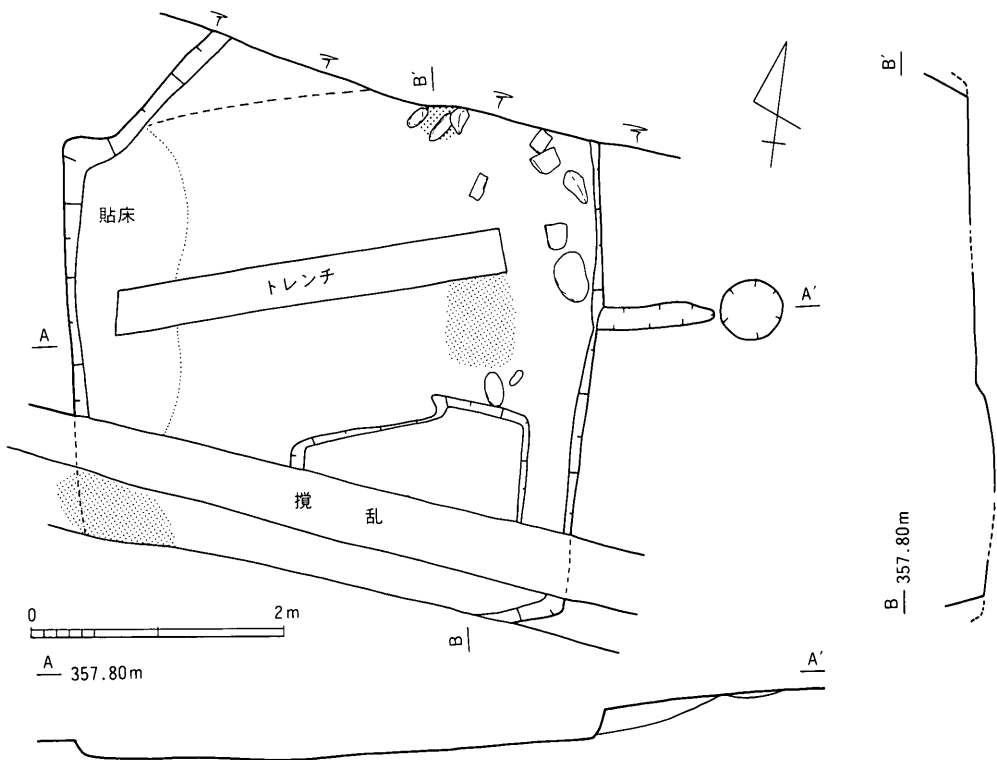
第6図 10号住居址

11号住居址

(第7図、図版1・2・6・8・9) 調査区北側西寄りから検出された住居址で、南側は道路となり、北側は調査区外となり共に調査できなかった。検出された地点が自然堤防と沖積地の接点に当たるため、土の堆積が複雑であり、また、住居址が複数切りあっているため不明な点が多いが、規模は4m前後の方形になるものと思われる。主軸はN-75°-Eに持ち、壁高は最大25cmを測ることができる。カマドは北壁東寄りに作られていたと考えられるが、火床の一部と焼けた石を検出したにすぎない。東壁からも煙道を検出しているが、住居址内に火床等がなく、カマドを移動しているのか、別の住居址が存在するのか明確でない。

出土遺物は比較的多かったが、小破片が多くまた遺物の混在が激しく、

住居址に伴うと思われるものは少なかった。1～3は内面黒色処理された杯で、底部は糸切り痕をそのまま残している。4は黒色処理されない杯で、口径が小さくゆがみが大きい。5・6は土師器の椀、7は皿で口縁端部が水平となる。8は灰釉陶器の皿で、口縁端部は短く外反する。9は土師器の耳皿で、ロクロ調整のあと両側から押さえて耳皿としている。10は須恵器の甕で、ナデのあと軽い叩きを施している。11は土師器の甕の底部である。12は羽釜で、口縁部は垂直、端部は丸く仕上げている。



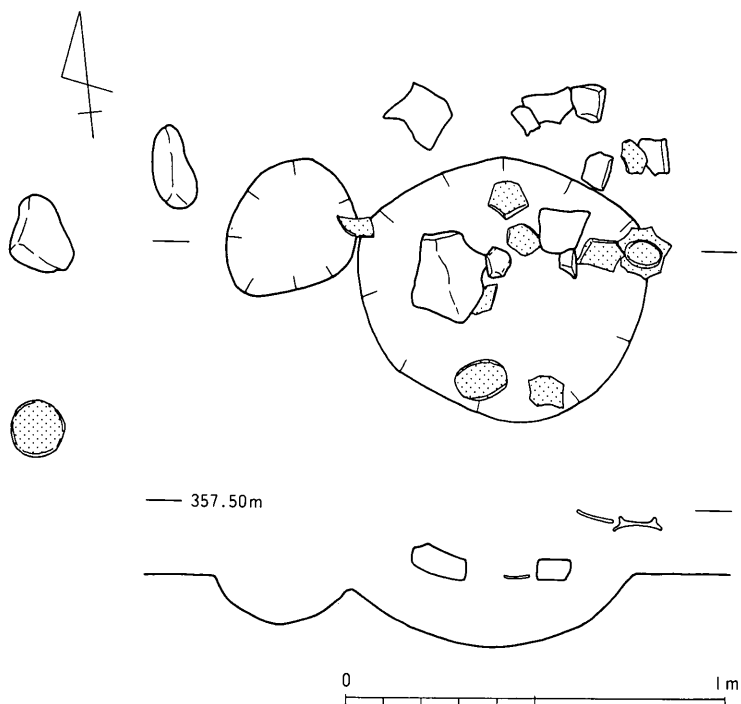
第7図 11号住居址

土器集中区

(第8図、図版2・3・7・9) 調査区西端より検出された遺構で、水田址面を掘り込んで作られている。したがって、覆土は砂層となる。長径75cm、短径65cm、深さ15cmほどの楕円形の掘り込みと、直径35cmの不整形で、深さ10cmほどの掘り込みを中心に土器や角礫が点在していた。

出土遺物は什器が多く、実測可能なまでに復元できるものが多い。1～8は土師器の杯で、1・2は内面黒色処理が施されている。いずれも底部

は糸切り痕を残しており、口径が小さい。9～12は土師器の椀で、9・10・12には内面黒色処理が施されている。11は口径が11cmと小さい。13は灰釉陶器の短頸瓶と思われる底部で、14はロクロ調整された口縁に最大径を持つ土師器の甕である。15は器壁の厚い須恵器の底部で、壺と思われる。



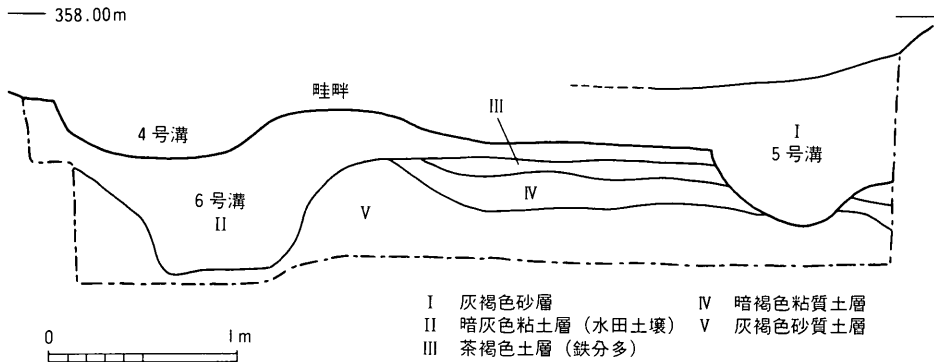
第8図 土器集中区

水田址

(第9図、図版7) 調査区西側の一段下がった部分には、耕作土下に40cmほどの厚さを持って堆積する褐色の砂層があり、これを取り除くと水田面が広がっている。水田面の標高は約357.4mで、N-80°-Eの方向に延びる1本の畦畔と、3本の溝が検出された。畦畔は幅1m、高さ20cmほどで、これに南接して幅1m、深さ10cmの1号溝が作られている。また、畦畔の北側1.5mにも、幅80cm、深さ40cmの2号溝がある。この溝是水田面を切って作られているため水田よりも新しいと思われるが、上部を覆う砂層に掘り込みが認められず、また畦畔と平行に作られていることから大きな時間差はないものと思われる。また、畦畔と1号溝の下部からは、水田土壌である暗灰色粘土を覆土に持つ3号溝が検出されている。逆台形状を呈しており、水が流れた痕跡はない。

水田面からは土師器・須恵器の小破片が出土しているが、図示できるよ

うなものはない。ただ、畦畔の近くから灰釉陶器の小瓶(1)がほぼ完形で出土している。膨らみが大きく球形に近い胴部から、口縁部が短く外反する。底部は糸切り痕をそのまま残しており、釉は付け掛けされている。



第9図 畦畔・溝断面図

その他の遺物

(図版3・9) 検出された遺構は多かったが切り合いが多く、また包含層が比較的浅かったため攪乱が多く、住居址以外に図示できる土器はほとんどない。1～4は15号住居址の上層から出土した土師器の杯で、高台の付く1は、内面黒色処理が施されている。2～4はかわらけ状で、ロクロ痕を顕著に残した体部は直線的に開き、底部には糸切り痕を残している。5は灰釉陶器の小瓶で、胴部は球形に近い。6は須恵器の広口壺で、以前に行われた工事の際、調査区北側の畑から出土したものである。土器以外の遺物として、和同開珎(8)と勾玉形滑石製模造品(7)がある。和同開珎は、12号住居址覆土上層より出土したもので、須恵器杯や土師器の北武蔵型の裏から、平安時代の中頃が想定される。遺存状態は良く、直径24.5mm、重さ2.2gを測る。滑石製模造品は遺構検出時に出土したものであり、遺構との関係は明らかではないが、8・9号が古墳時代の住居址であることから、古墳時代と考えられる。作りは粗く、一端に1mmほどの穿孔が見られる。9・10の鉄製品は刀子と鎌で、3・2号住居址から出土している。

VI ま と め

調査で検出された遺構は、全形を知り得たものはなかったが、東側では古墳時代から平安時代の集落址、西側では一段下がって平安時代の水田址が検出されている。両者の境は現状でも50cm以上の比高があり、容易に判断できる。この段差が水田址と集落址の境界とすれば、現在考えられている集落址よりかなり西に広がることとなる。古墳時代の中頃に居住地としての使用が開始され、一旦途絶えた後、平安時代の中頃になって再び居住地として使用されたものと思われる。

更埴市の千曲川東岸の遺跡は、仁和の大洪水(888年)の際、堆積したとされる厚さ数十cmから1mの砂層に覆われているのが一般的である。この砂層は粟佐遺跡群・屋代遺跡群に広がっており、発掘調査を行う場合、鍵層とされていた。今回の調査地から約200m南の南沖遺跡でも厚さ約50cmの砂層が確認されており、遺構の多くはこの砂層の下から検出されている。しかし、今回の調査地には砂層はなく、洪水がどのような経路で屋代遺跡群に達したのか興味深い。

千曲川と自然堤防の間に水田址が存在することはすでに知られていたが、畦畔が検出されたのは初めてである。更埴条里水田址の畦畔の方向がN-85°-Eほどであるのに対して、今回検出された畦畔はN-80°-Eと5°前後のずれがあるため同一の地割ではないが、畦畔の規模や、下に溝状の掘り込みを持つ点などは、更埴条里水田址の坪を画する畦畔と同じであり、関連性が注目される。今後、石川条里、八幡地区の条里などの広域的な検討が必要となろう。

和同開珎のもつ意義も重要である。更埴市内では生仁遺跡に次ぎ2遺跡目で、3点目の出土となる。残念ながら出土した遺構が不明で、相伴する遺物もなかったため、編年資料として位置付けることはできないが、集落址からの出土であり、注目される。

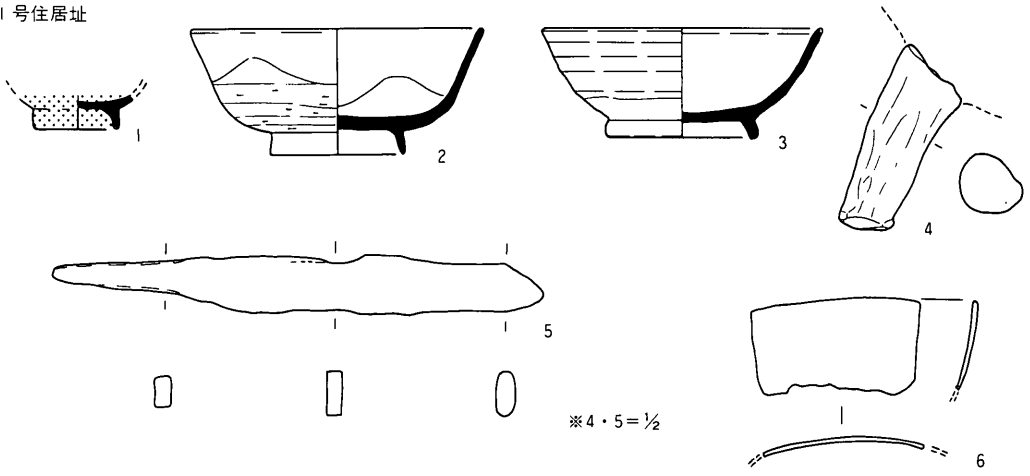
また、今回の調査地点から十数m南側からは、市内の馬口^{ばぐち}遺跡から出土した鉄釜と同様の釜が以前に発見されたと伝えられており(註2)、1号住居址から出土した銅椀と思われる破片、土師質の脚部と共に、仏教的な色彩が感じられる。

(註1) 森鳴 稔他 1978 『更科埴科地方誌』第二巻 第四章

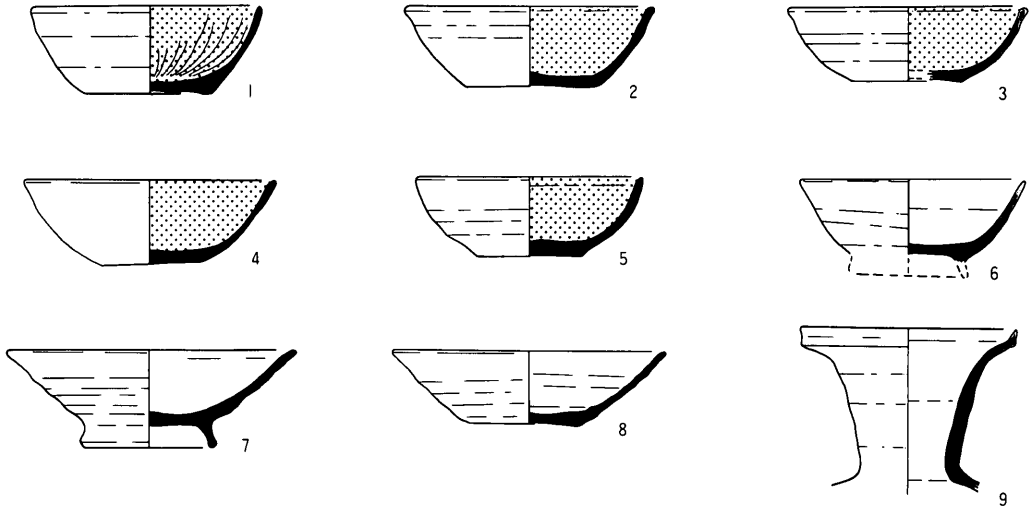
(註2) 同

图版 1

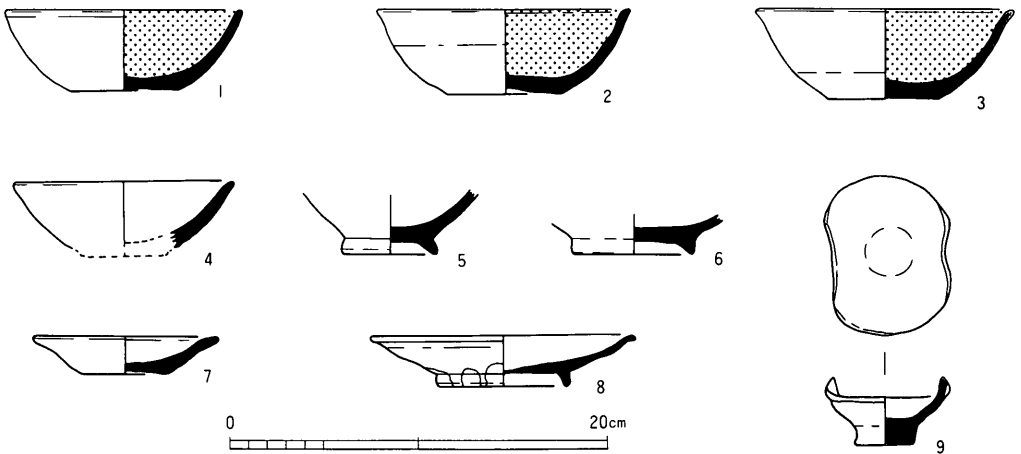
I号住居址



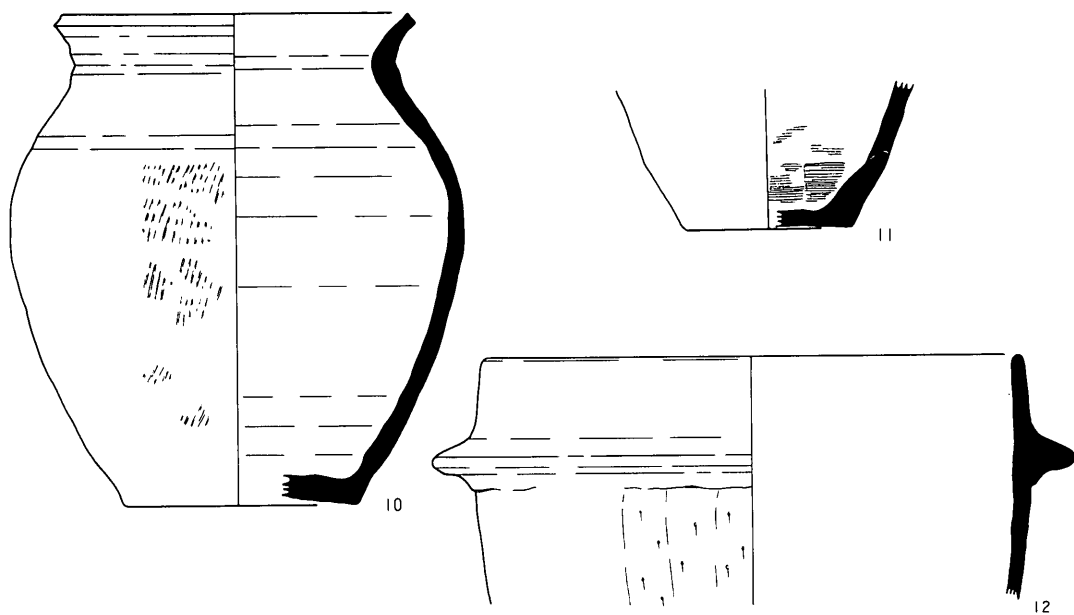
10号住居址



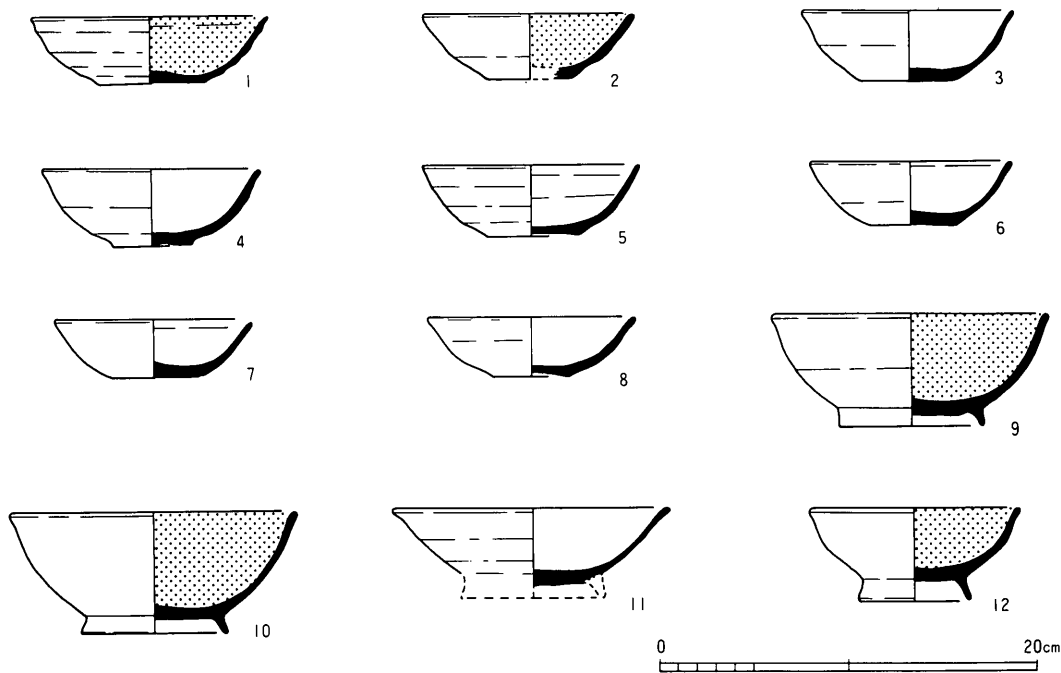
11号住居址



11号住居址

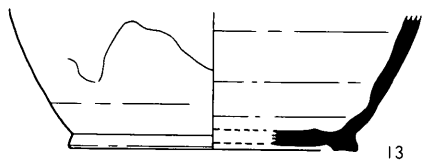


土器集中区

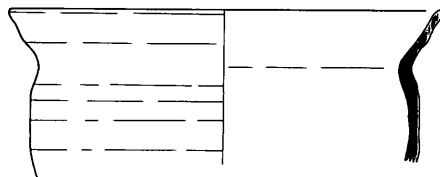


図版 3

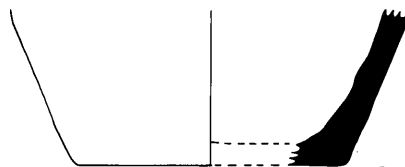
土器集中区



13

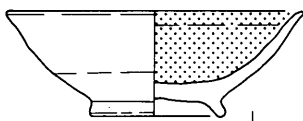


14

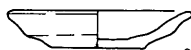


15

その他の遺物



1



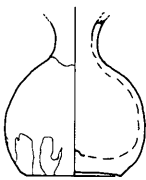
2



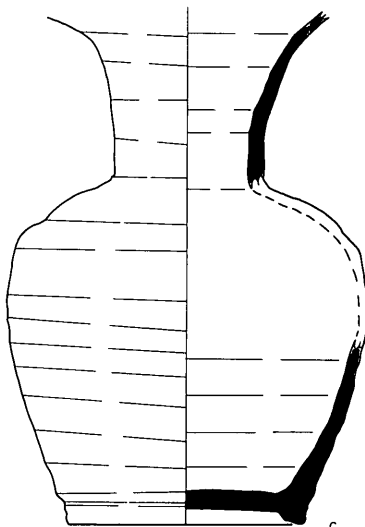
3



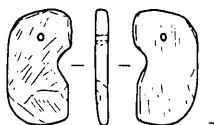
4



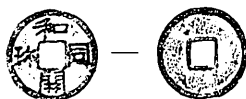
5



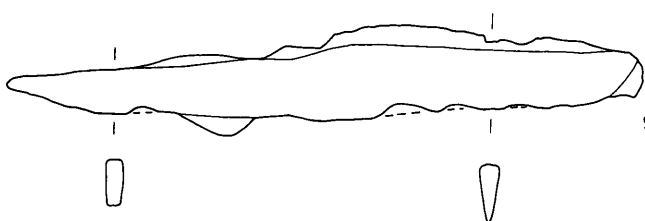
6



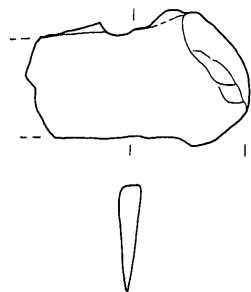
7



8



9



10

0 20cm

※ 7 - 10 = 1/2



調査地全景（東より）



調査風景（東より）



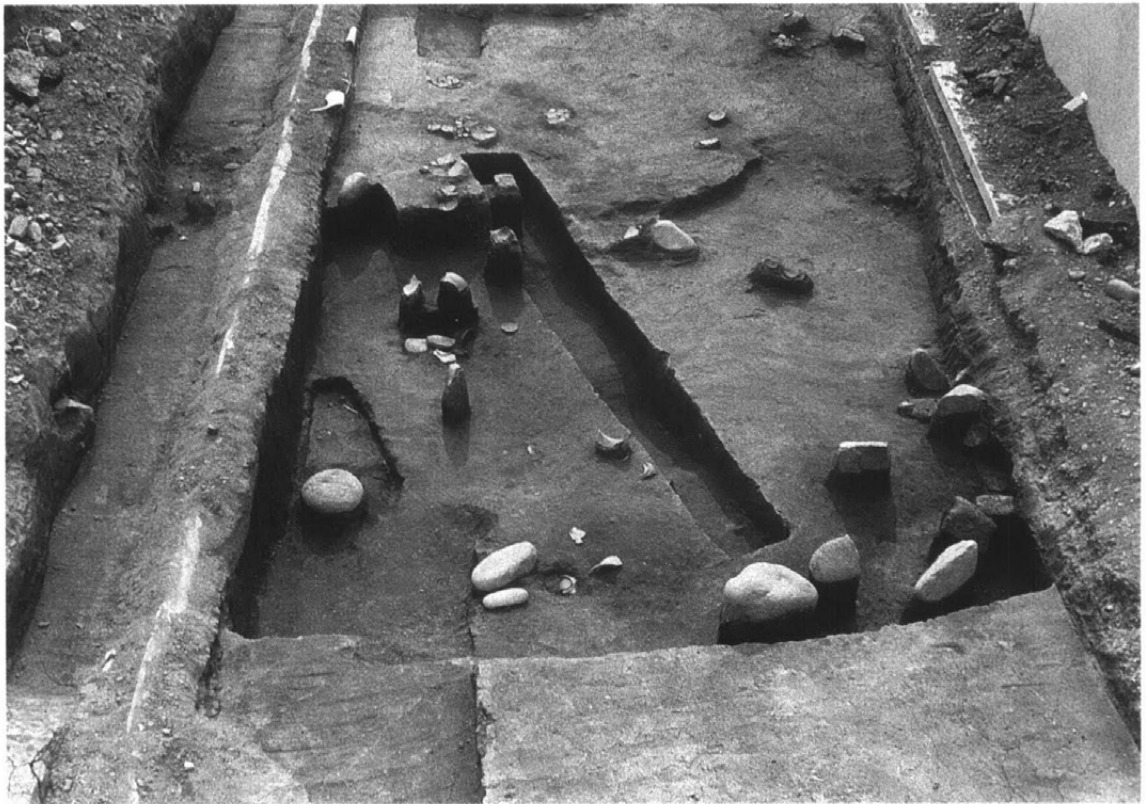
調査区全景（東より）



1号住居址（西より）



10号住居址 (南より)



11号住居址 (東より)



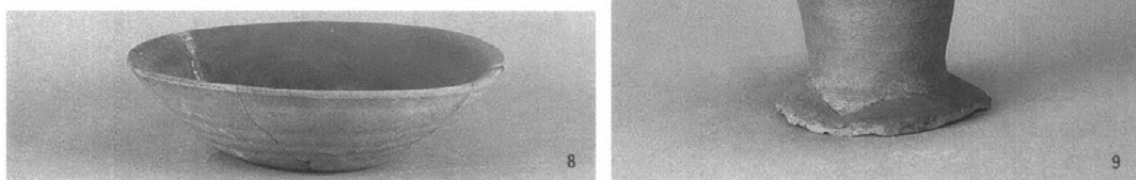
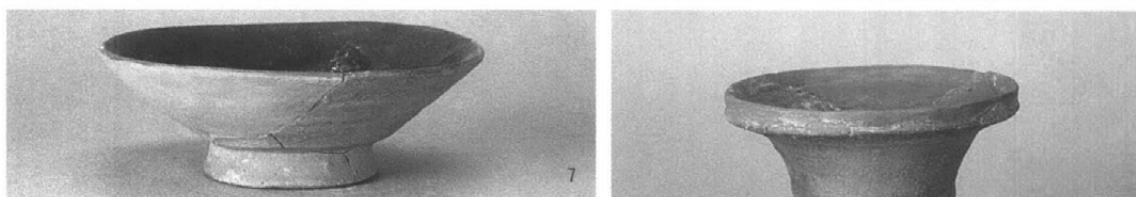
土器集中区 (西より)



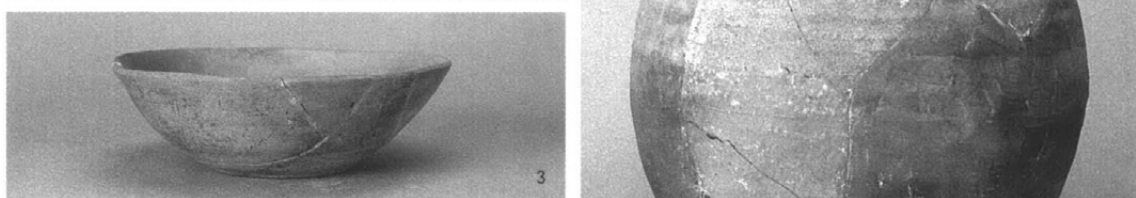
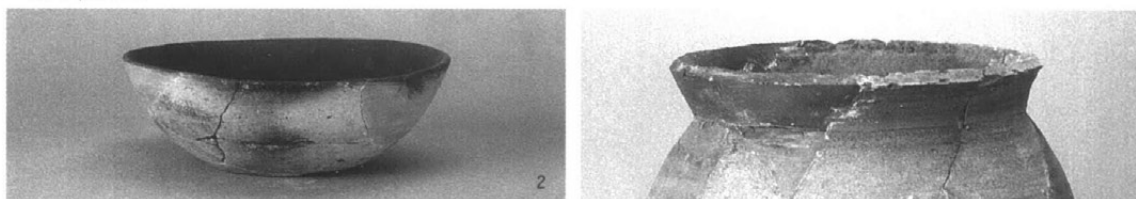
水田址畦畔 (東より)



1号住居址

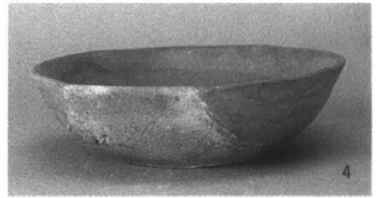
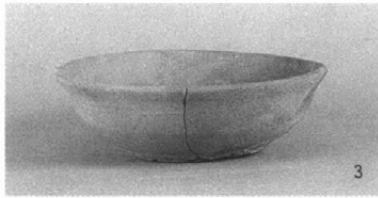


10号住居址



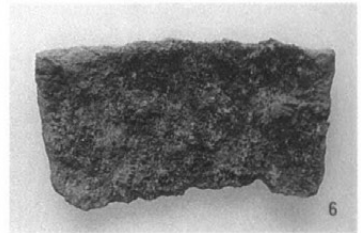
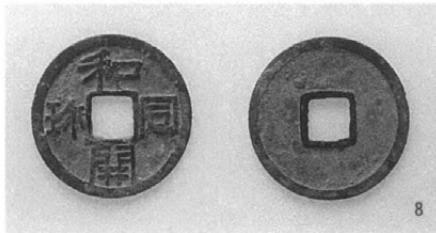
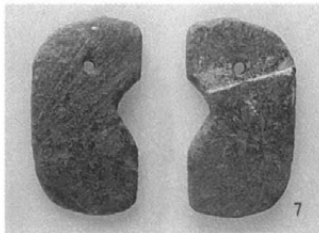
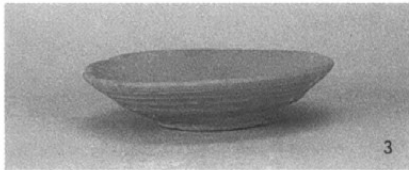
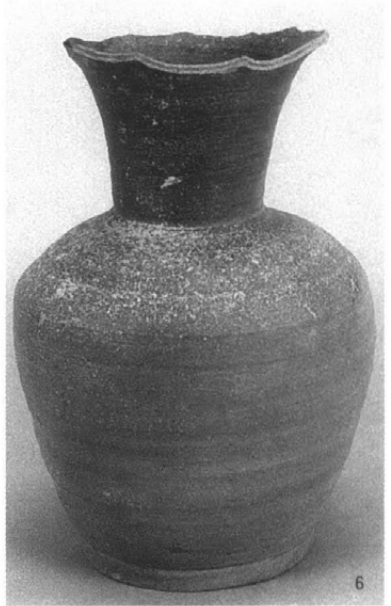
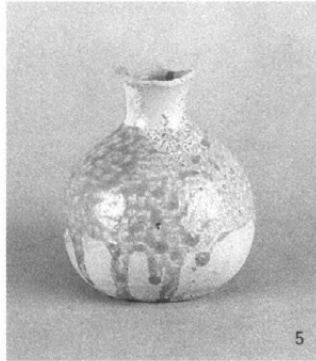
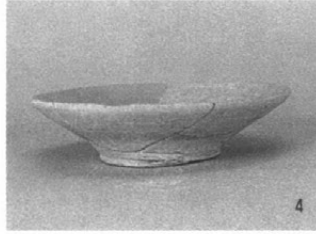
11号住居址

図版 9



11号住居址

土器集中区



その他の遺物

1号住居址

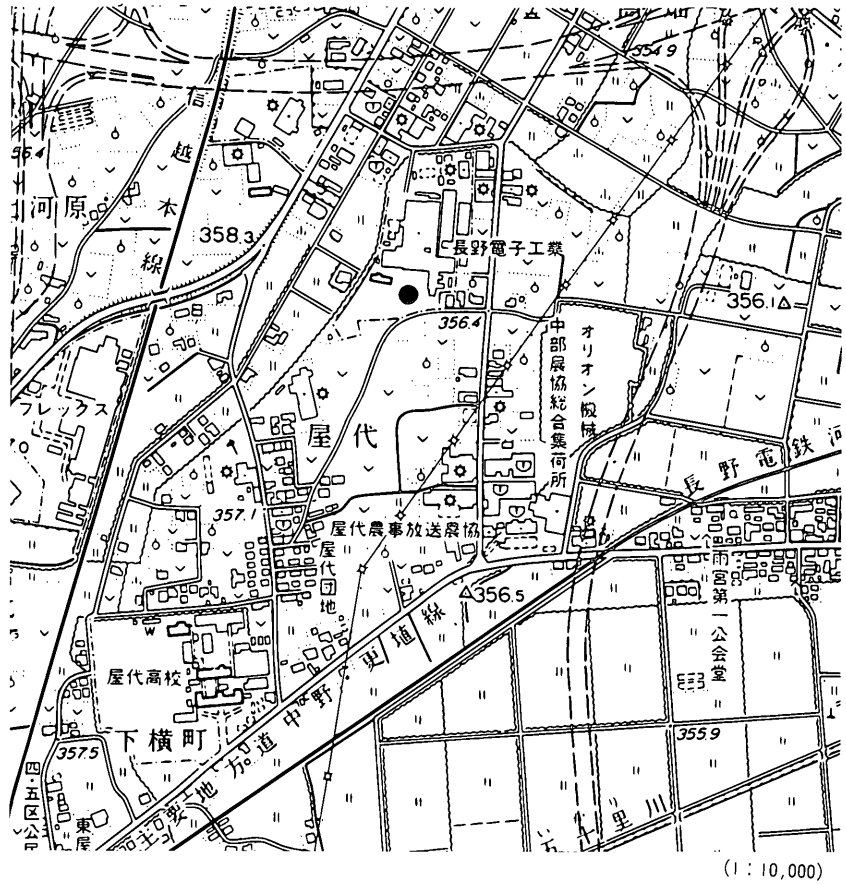
2 城ノ内遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 しろのうち 城ノ内遺跡 (市No.31-7 調査記号SRN)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字屋代字城ノ内1371
更埴市大字屋代字城ノ内1393 長野電子工業株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=新工場建設
長野電子工業株式会社
- 4 調査の内容 発掘調査 (500㎡)
- 5 調査期間 平成2年6月18日~10月20日 (7日間)
- 6 調査費用 1,120,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
調査員 笹澤正史 駒澤大学学生
参加者 市川睦雄 内山はつ 岡田栄子 金田良一 久保啓子
小林千春 小林芳白 白石正生 高野貞子 高野智司
中村久美子 中村文恵 村山 豊 山田洋子
- 8 種別・時期 集落址・居館址=弥生時代中期~中世
- 9 遺構・遺物 古墳時代=住居址2棟
平安時代=住居址5棟 溝址・土坑
出土遺物=土器片 コンテナ13箱

報告書は、平成2年度に『城ノ内遺跡III・荒井遺跡II』として刊行

第10図
遺跡位置図



第2表 城内遺跡住居址一覧表

No.	時代	形態 規模(m)	主軸方向 (長軸)	おもな出土遺物	備考
1	平安	長方形 (8.0)×6.1	N-10°-W		北壁にカマド
2	古墳	方形? (7.6)×	N-25°-E	高杯、小型丸底甕	
3	古墳	方形 (6.3)×(6.3)	N-30°-E	高杯、小型丸底甕	地床炉
4	平安	方形 (5.0)×(3.7)	不明		
5	平安	方形 不明			北壁にカマド
6	平安	不明	不明		
7	平安	不明	不明	壺	大半は調査区外
8	平安	不明	不明		大半は調査区外

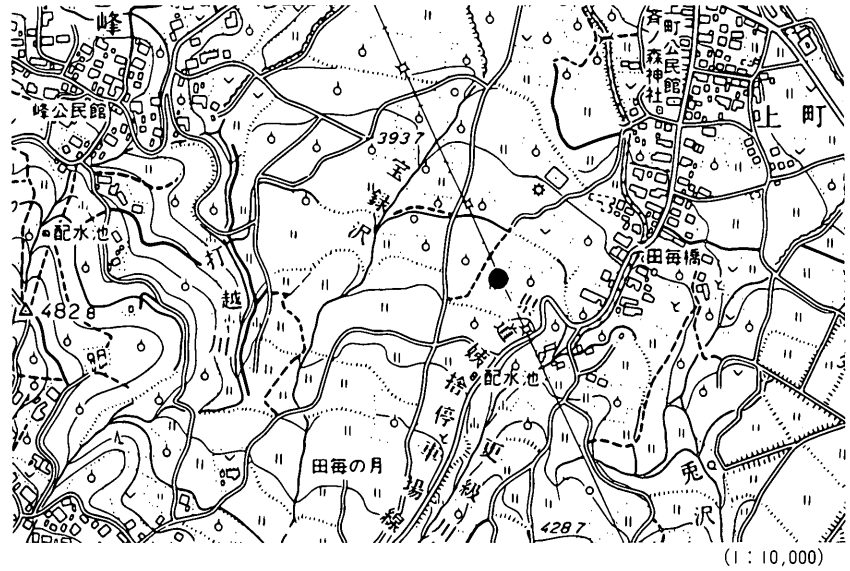
3 舞台遺跡他 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ^{ぶたい}舞台遺跡 (市No.107 調査記号BTA 2)
^{にしなかせね}西中曾根遺跡 (市No.106)
^{おぼすて}媛捨遺跡 (市No.108)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字八幡字舞台 他
土地所有者 西部沖ほ場整備委員会
- 3 原因及び 公共事業＝県営ほ場整備西部沖地区工事
事業者 長野地方事務所
- 4 調査の内容 発掘調査 (2,000m²)
- 5 調査期間 平成2年6月22日～同年8月12日 (36日間)
- 6 調査費用 総額5,200,000円 { 農政部局 3,770,000円
文化財保護部局1,430,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査員 贅田 明
小野紀男
笹澤正史
参加者 荒井真由美 市川睦雄 岡田栄子 金田良一 久保啓子
小林千春 小林昌子 小林芳白 佐々木佳子 白石正生
高野貞子 武井邦登 竜野正幸 中村久美子 中村文恵
原崎 恵 宮崎恵子 村山 豊 山田隆之 山田洋子
- 8 種別・時期 集落址＝弥生時代～古墳時代
- 9 遺構・遺物 舞台遺跡
弥生時代＝住居址7棟 掘立柱建物址1棟
出土遺物＝土器片 コンテナ27箱

報告書は、平成2年度に『舞台遺跡』として刊行

第11図
跡位置図



第3表 舞台遺跡住居址・掘立柱建物一覧表

住居址

No.	時代	形態規模(m)	主軸方向(長軸)	おもな出土遺物	備考
1	弥生	隅丸長方形 (8.0)×6.1	N-10°-E	高杯・甕・壺	立て替えあり、地床炉 主柱穴4本で入口施設あり
2	弥生	不明 (7.6)×	N-70°-W	片口鉢	地床炉
3	弥生	不明	不明	高杯・甕	3回以上の立て替え、あるいは 重複あり、焼失住居
4	弥生	隅丸長方形 (5.0)×(3.7)	N	高杯・台付甕	焼失住居、地床炉 主柱穴4本で入口施設あり
5	弥生	不明	(N-25°-W)	甕・蓋	6号住居址 古 入口施設あり
6	弥生	隅丸長方形? 不明	不明	高杯・甕・ 台付甕・壺	5・7号住居址 新 北側調査区外
7	弥生	不明	不明	壺	6号住居址 古 大半調査区外

掘立柱建物址

No.	時代	形態規模(m)	主軸方向(長軸)	おもな出土遺物	備考
1	弥生?	方形 4.8×4.5	N-90°-E	高杯・ 壺の小破片	2間×2間で中央部に柱はない 掘り方は1辺60cmの方形

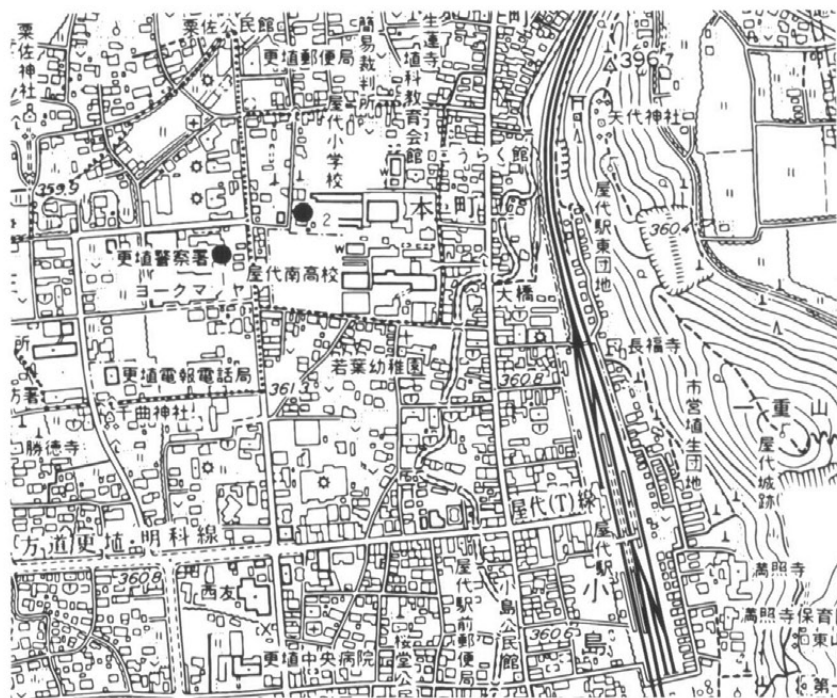
4 南沖遺跡・五輪堂遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 みなみおき 南沖遺跡 (市No.28-2 調査記号MOK2)
ごりんどう 五輪堂遺跡 (市No.28-1 調査記号GRK)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字粟佐字南沖1548-1外
土地所有者 更埴警察署
- 3 原因及び 公共事業=更埴警察署庁舎官舎建設
事業者 長野県警察本部
- 4 調査の内容 発掘調査 (1,700m²)
- 5 調査期間 平成2年8月17日～同年12月5日 (56日間)
- 6 調査費用 9,100,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
調査員 小野紀男 奈良大学学生
笹澤正史 駒澤大学学生
補助員 塚田泰司 國學院大学学生
参加者 井口賢一 市川睦雄 岡田栄子 金田良一 久保啓子
久保文男 小林千春 小林芳白 白石正生 高野貞子
寺沢達也 中村久美子 中村文恵 林宏一郎 村山 豊
山田洋子 吉原一孝
- 8 種別・時期 集落址=古墳時代～平安時代
- 9 遺構・遺物 南沖遺跡
古墳時代=住居址1棟
平安時代=住居址19棟 掘立柱建物址4棟 他
出土遺物=土器片 コンテナ15箱
五輪堂遺跡
古墳時代=住居址4棟 平安時代=住居址13棟 不明2棟
出土遺物=土器片 コンテナ18箱

報告書は平成2年度に『南沖遺跡III・五輪堂遺跡VI』として刊行

第12図
遺跡位置図



1. 南沖遺跡 2. 五輪堂遺跡

(1 : 10,000)



第13図 南沖遺跡全景 (西より)

第4表 南沖遺跡住居址一覧表

No.	検出位置	時代	形態 規模(cm)	主軸方向 (長軸)	おもな出土遺物	備 考
1	G-5	平安	方形 不明	N-80°-E	土師器杯 須恵器杯 カマド切石	東壁にカマド 2号住居址<古
2	F-6	平安	方形 330×320	N-6°-E	土師器高台付杯 須恵器杯 刀子	北壁と南壁にカマド 1号住居址<新
3	D-9	平安	方形 230×230	N-2°-E	土師器杯 四耳壺 鎌	北壁にカマド
4	F-13	平安	方形 410×400	N-6°-E	須恵器高台付杯・蓋 土師器杯	北壁にカマド
5	E-13	平安	方形 250×250	N-5°-W	土師器杯 須恵器高台付杯・蓋	北壁にカマド
6	F-15	平安	方形 (450)×	N-2°-E	土師器杯 須恵器杯 砥石	北壁にカマド 7号住居址<新
7	F-14	平安	方形 (550)×		須恵器杯	6号住居址<古 内側に6号住居址あり
8	D-19	平安	方形 410×410	N-3°-W	土師器杯 須恵器杯	北壁にカマド 焼失住居?
9	F-18	平安	方形 500×450	N-8°-E	土師器杯 須恵器高台付杯	北壁にカマド 外側に住居址あり
10	E-21	平安	方形 470×470	N-85°-E	土師器杯 須恵器高台付杯	東壁にカマド 2号掘立柱建物址<古
11	G-11	平安	方形 340×	N-82°-E	土師器杯 須恵器杯 北武蔵型甕	西壁にカマド 北側調査区外
12	G-9	平安	方形 310×300	N-2°-W	土師器杯・小型甕 石臼	北壁にカマド
13	B-2	平安	方形 不明		土師器杯・皿	北壁にカマド 西側・南側調査区外
14	C-2	平安	方形 不明		土師器杯	6号溝址<新 西側調査区外 南壁攪乱
15	M-2	平安	方形 不明	N	土師器杯 須恵器杯	北壁にカマド 東側・南側調査区外
16	O-2	古墳	方形		須恵器杯・大甕破片	
17	C-25	平安	方形 290×290	N-4°-W	土師器杯 須恵器大甕破片	北壁にカマド カマド部分突出
18	D-28	平安	方形 360×330	N-90°-E	土師器高台付杯	2棟重複 東壁にカマド
19	G-28	平安	方形 470×	N-85°-E	土師器杯 甲斐型杯 北武蔵型甕 砥石	東壁にカマド
20	C-26	平安	不明		土師器高台付杯	3号掘立柱建物址<新 床面のみ検出

第5表 五輪堂遺跡住居址一覧表

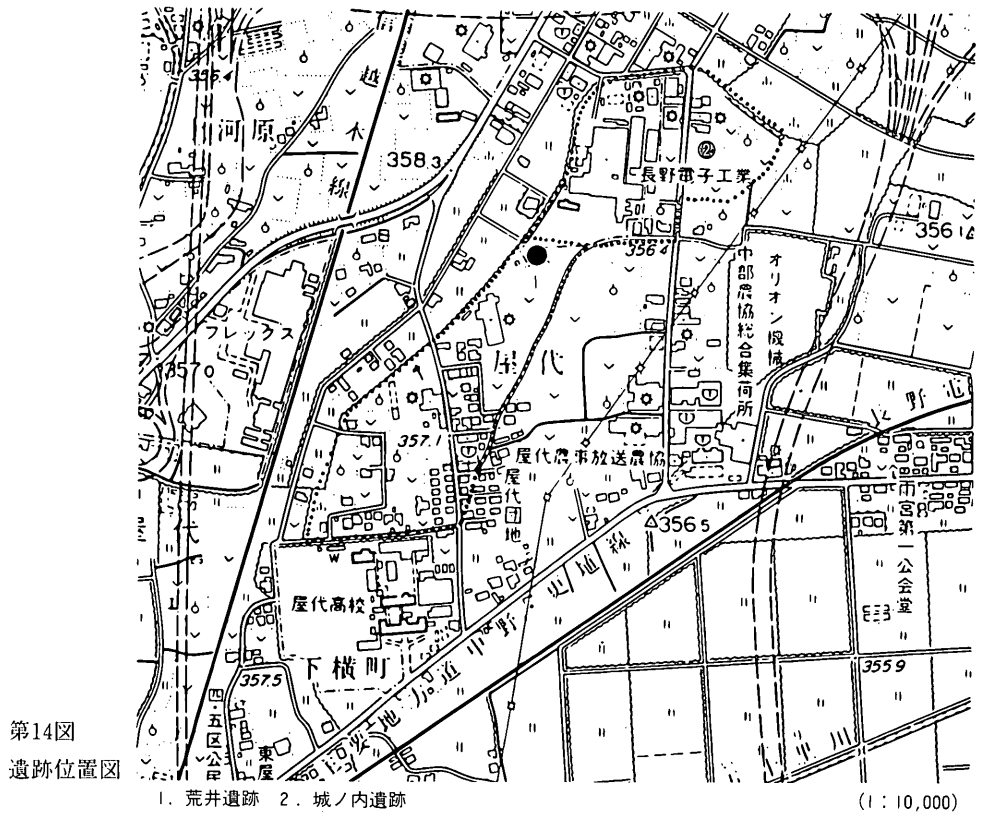
No.	検出位置	時代	形態 規模(cm)	主軸方向 (長軸)	おもな出土遺物	備 考
1	B-7	奈良?	方形 460×410	N-87°-W	土師器椀 須恵器高台付杯	東壁にカマド 5号住居址<新
2	A-5	平安	方形 (420)×	N-88°-W	土師器高台付杯 須恵器甕	東壁にカマド? 南側調査区外
3	B-5	平安	長方形 390×320	N-1°-W	土師器杯 須恵器杯	北壁にカマド 2号住居址<古 4号住居址<新
4	C-5	平安	隅丸長方形 450×310		長頸壺 土師器甕	小竪穴の可能性あり 3号5号6号住居址<新
5	B-6・7	古墳	不整方形 600×600	N-60°-E	土師器高杯・甕	東壁にカマド 1号4号住居址<古
6	D-4・5	古墳	方形 570×570	N-63°-W	土師器杯・高杯 長胴甕	4号7号住居址<古
7	E-5	平安	方形 (390)×		土師器杯 須恵器大甕	北側調査区外 6号住居址<新
8	B-8		不明		土師器甕	1号住居址<新
9	D-7	平安	方形 500×	N-87°-E	土師器杯・甕 灰釉陶器椀	北側調査区外
10	D-6	古墳	不明		土師器長胴甕 石臼	北側調査区外 9号住居址<古
11	C-8	平安	不明		土師器杯・甕 須恵器杯	西壁にカマド 東側調査区外
12	D-2	平安	方形 450×		土師器杯・甕 刀子	東壁にカマド カマド突出 16号17号住居址<新
13	A-1	平安	方形 不明	N-83°-W	土師器杯 須恵器杯・壺	東壁にカマド 西側・南側調査区外
14	B-2・3	平安	長方形 560×450	N-80°-W	土師器杯 須恵器杯 瓦	東壁にカマド 15号18号19号住居址<新
15	A-3	平安	(250)×		土師器杯 須恵器杯 石臼	14号住居址<古
16	D-3	平安	方形 (390)×	N-87°-E	土師器甕	東壁にカマド 北側調査区外 6号住居址<新 12号住居址<古
17	D-1・2		不明		灰釉陶器椀 北武蔵型甕	12号住居址<古
18	B-3	古墳	不明		須恵器甕	14号住居址<古
19	A-2		不明		土師器甕	14号住居址<古

5 荒井遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 荒井遺跡^{あらい} (市No.31-5 調査記号ARI 2)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字屋代字荒井1203
長野市柳町18 中部電力株式会社長野支店
- 3 原因及び
事業者 民間事業=送電用鉄塔建設
中部電力株式会社
- 4 調査の内容 発掘調査 (140㎡)
- 5 調査期間 平成2年10月13日～同年10月20日 (7日間)
- 6 調査費用 770,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査員 山根洋子 更埴市教育委員会
参加者 市川陸雄 金田良一 久保啓子 小林千春 小林芳白
佐々木佳子 白石正生 高野貞子 中村久美子
中村文恵 村山 豊
- 8 種別・時期 集落址=弥生時代中期～中世
- 9 遺構・遺物 弥生時代中期=住居址1棟
中世=溝址 井戸址
出土遺物=弥生式土器 コンテナ1箱
古墳時代～平安時代土器 コンテナ1箱

報告書は平成2年度に『城内遺跡III・荒井遺跡II』として刊行



第6表 荒井遺跡住居址一覧表

No.	時代	形態規模(m)	主軸方向(長軸)	おもな出土遺物	備考
1	弥生	円形? 不明	不明	甕・石包丁 扁平片刃石斧	焼失住居、地床炉 溝に切られ、北側は調査区外

6 琵琶島遺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ^{びわじま}琵琶島遺跡（市No.28 調査記号BWJ）
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字小島字琵琶島
上田市材木町一丁目5番地14号 永山建設株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業＝ホテル建設
永山建設株式会社
- 4 調査内容 浄化槽部分発掘調査（110㎡）
- 5 調査期間 平成2年10月29日～同年10月31日
- 6 調査費用 300,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之 更埴市教育委員会
参加者 市川睦雄 久保啓子 久保文男 小林芳白 高野貞子
村山 豊
- 8 種別・期間 集落址？＝平安時代
- 9 遺構・遺物 平安時代＝住居址1棟？
出土遺物＝土器片 コンテナ1箱

II 調査の経過

平成2年8月、屋代駅前にホテルを建設したいとの照会があった。市教育委員会では当該地が琵琶島遺跡に当たるため、埋蔵文化財の保護処置が必要と連絡した。9月10日、試掘調査を実施した結果、建物部分については以前の建物により包含層が破壊されていたが、浄化槽部分からは遺構が検出されたため、発掘調査が必要となった。9月11日、文化財保護法57条の届け出があり、9月25日、発掘調査の依頼があったため、発掘調査の準備を開始した。10月25日、永山建設(株)と更埴市長との間に委託契約が締結され、10月29日から調査を開始した。調査面積は110㎡と狭く、攪乱が多かったため、調査は10月31日に完了した。

III 遺跡の環境

琵琶島遺跡は更埴市大字小島字琵琶島にあり、東側約200mには屋代駅がある。上田市から北流する千曲川と、有明山から北へ延びる一重山との間に形成された中洲状の微高地に位置する。一帯の遺跡は、大きく粟佐遺跡群として把握されており、東西0.5km、南北1kmほどの広がりを持っている。この遺跡群内には五輪堂遺跡・南沖遺跡・戸崎遺跡などが含まれており、これまでに十数回の調査が行われ、200棟を超える住居址が確認されている。特に五輪堂遺跡は更埴市屈指の大遺跡で、弥生時代終末から中世に至る多くの遺構が検出されている。この琵琶島遺跡は遺跡群の南西隅に当たり、標高357.5m前後となる。遺跡内を流れる五十里川は、更埴条里水田で知られる屋代田んぼを広く潤している。



IV 遺構と遺物

調査区内は南側の一部を除いて、東西方向に延びる幅50cm、深さ30cmほどの溝状の掘り込み11本が並んで検出された。おそらく近世に畑地として利用された際、深掘りされた部分と考えられる。そのため、それ以前の遺構はすべてこれによって破壊されている。検出された遺構はこの溝状の遺構のほか、住居址と思われる掘り込み1棟・土坑5基・ピット2本である。

1号住居址

調査区東側よりその一部が検出されたもので、隅となる部分が破壊されているため住居址とは断定できないが、一辺4.5mほどの方形のプランが想定できる。壁はほぼ南北方向に作られており、高さは最大で10cmを測ることができる。

出土遺物は須恵器杯1点のほか、土師器の小破片数点と少ない。須恵器杯は体部が直線的に開いており、底部はヘラ切りされている。

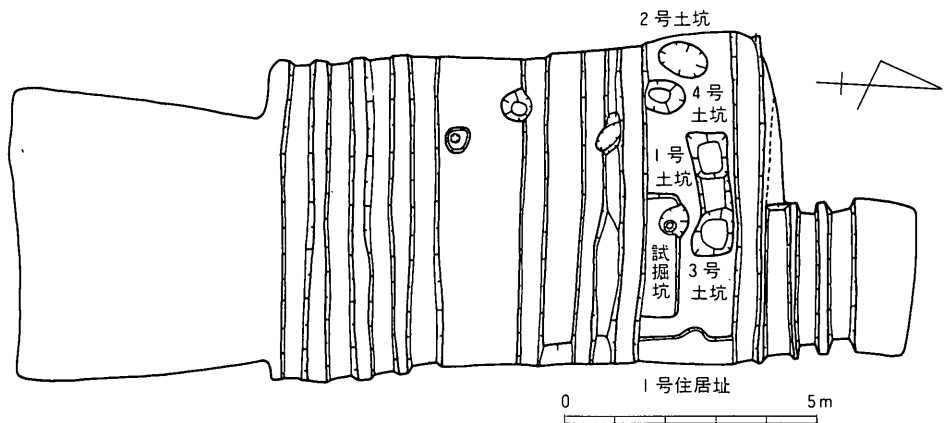
1号土坑

試掘調査の際に検出された遺構で、直径約70cmの不整円形になる。深さは30cmほどで、底部に径20cmの落ち込みがある。土坑とするよりも、柱穴の可能性が高い。

古墳時代と思われる土師器の小破片が1点出土している。

2号土坑

長径1m、短径70cmの楕円形で、なだらかな掘り鉢状に落ち込んでおり、深さは10cmを測ることができる。



第16図 琵琶島遺跡遺構全体図

出土遺物には赤色塗彩された高杯の脚部がある。ハの字状に外反し、ていねいなミガキが施されている。このほか古墳時代後半と思われる土師器甕の破片が数片出土している。

3号土坑

2号土坑と並んで作られた土坑で、南側を溝状の掘り込みによって破壊されているが、2号土坑と似た形状を示しており、規模もほぼ同じ程度になるものと思われる。

土師器小破片が出土しているが、時期などは分からない。

4号土坑

溝状の掘り込みによって破壊されており、形状は不明である。深さは40cmほどで掘り込みはしっかりしている。

出土遺物はなかった。

V ま と め

今回の調査で検出された遺構・遺物はわずかであったが、弥生時代末から平安時代のものが検出されていることから、調査地はおそらく五輪堂遺跡の南東隅に当たるとと思われる。これまで、五輪堂遺跡は屋代南高等学校の南側で終わるものと考えられていたが、さらに200mほど南に広がることとなった。調査地点より東側は、これまでの立会調査では遺跡は確認されおらず、下部に泥炭に近い土層を持つことが確認されている。おそらく粟佐遺跡群の存在する地域は千曲川によって形成された自然堤防上に当たり、東側はこの自然堤防による後背湿地になるものと思われる。



第17図 琵琶島遺跡調査区全景

7 屋代寺跡 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 おくだいじ 屋代寺跡 (市No.31-16 調査記号OKJ)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字雨宮字町浦392
土地所有者 更埴市大字雨宮178 岩佐 勝
- 3 原因及び 民間事業=倉庫建設 (783㎡)
事業者 岩佐 勝
- 4 調査内容 トレンチ発掘調査 (180㎡)
- 5 調査期間 平成3年3月18日～同年3月31日
- 6 調査費用 380,000円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
担当者 佐藤信之
調査員 贅田 明 國學院大学学生
参加者 久保文男 小林千春 小林芳白 酒井幸次郎 村山 豊
- 8 種別・時期 寺院跡=奈良時代 集落址=平安時代 墓=中世
- 9 遺構・遺物 奈良時代=寺院跡石敷 平安時代=住居址 2棟
中世 =土壙墓 1基
瓦片 コンテナ6箱
土器片 コンテナ1箱
人骨 3体

II 調査の経過

平成3年1月、岩佐勝氏より雨宮町裏地籍に倉庫を作りたいと連絡があった。市教育委員会では、当該地は屋代寺跡とされる地点であり、建設にあたっては発掘調査が必要であると回答した。2月26日、試掘調査を実施した結果、地表下約75cmから石敷と思われる河原石が検出されたため、基礎がこれ以上深くなる場合は、全面調査が必要であると連絡した。そのため基礎が遺構面に達しないよう設計変更することとなり、基礎部分をトレンチ調査することとなった。3月2日、発掘調査の依頼があり、3月11日に委託契約が締結され、3月18日から発掘調査に入った。調査は寺院跡の面までとし、それ以下の調査は行わず、そのまま埋め戻した。

III 調査日誌

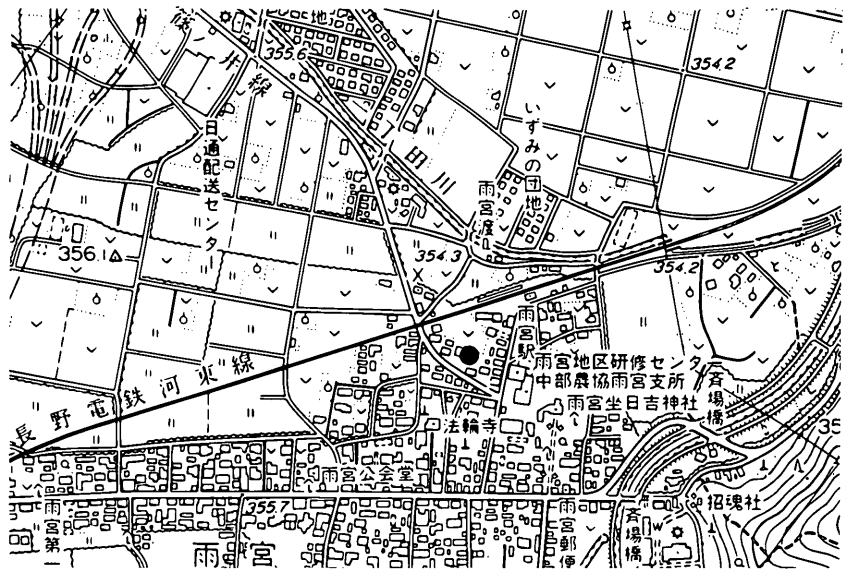
- 3月18日 重機を入れ掘り下げ、3トレンチより河原石検出。
- 3月25日 3トレンチより基段状の石列検出。
- 3月27日 4トレンチより人骨3体出土。
- 3月30日 住居址の実測を行う。
- 3月31日 雨の中、瓦集中地点の遺物を取り上げ、調査完了とする。

IV 遺跡の環境

屋代寺跡は更埴市大字雨宮字町浦に位置し、大きく屋代遺跡群として把握されている。屋代遺跡群は、千曲川左岸に形成された自然堤防上に展開する更埴市屈指の大遺跡で、東西3.5km、南北1kmの広がりを持つ。古くから遺物の出土が知られており、城ノ内遺跡・大境遺跡・灰塚遺跡・馬口遺跡等において、調査が行われている。

屋代寺跡は遺跡群の北東隅に当たり、標高356m前後となる。遺跡の東約100mには雨宮あめのみやにいますしえ坐日吉神社があり、北100mには川中島の戦いで知られる雨宮の渡しがある。

この地点は古瓦の出土地として古くから知られており、近世に正法寺しょうほうじという寺があったため、正法寺瓦と呼ばれていた。また、貞観8年に定額寺に定まった信濃5か寺の一つ屋代寺が埴科郡屋代郷に存在したとされることから、屋代寺跡とも考えられている。昭和37年(1962)に更埴糸里遺構の調査が行われた際、今回調査を行った部分にトレンチが設定され、礎石・石敷等とともに、多くの瓦が出土した。



第18図
遺跡位置図
(1:10,000)

V 遺構と遺物

調査は幅2mのトレンチ4本によるものであり、全容を知り得た遺構はない。しかし、昭和37年（1962）の調査で検出されながら正確な位置の分からなかった石敷のほか、瓦集中区、住居址2棟が検出された。

寺院跡石敷

（第20図、図版16） 3トレンチの東側から検出された遺構で、昭和37年の調査で検出された遺構の一部である。長さ50cm、幅25cm前後の角礫を、北側に面をそろえて、N-80°-Eの方向に並べた石列の南側に、5~10cmの河原石が敷かれている。石列の石は20cmほどが埋められており、上部に約20cmが突出する。石敷はこれより10cmほど下がっており、したがって、地表より10cm上がって作られている。昭和37年の調査で、この石列は9m以上の長さを持つことが確認されており、この南8.15mから南側に面をそろえる同様の石列が検出されている。

瓦集中区

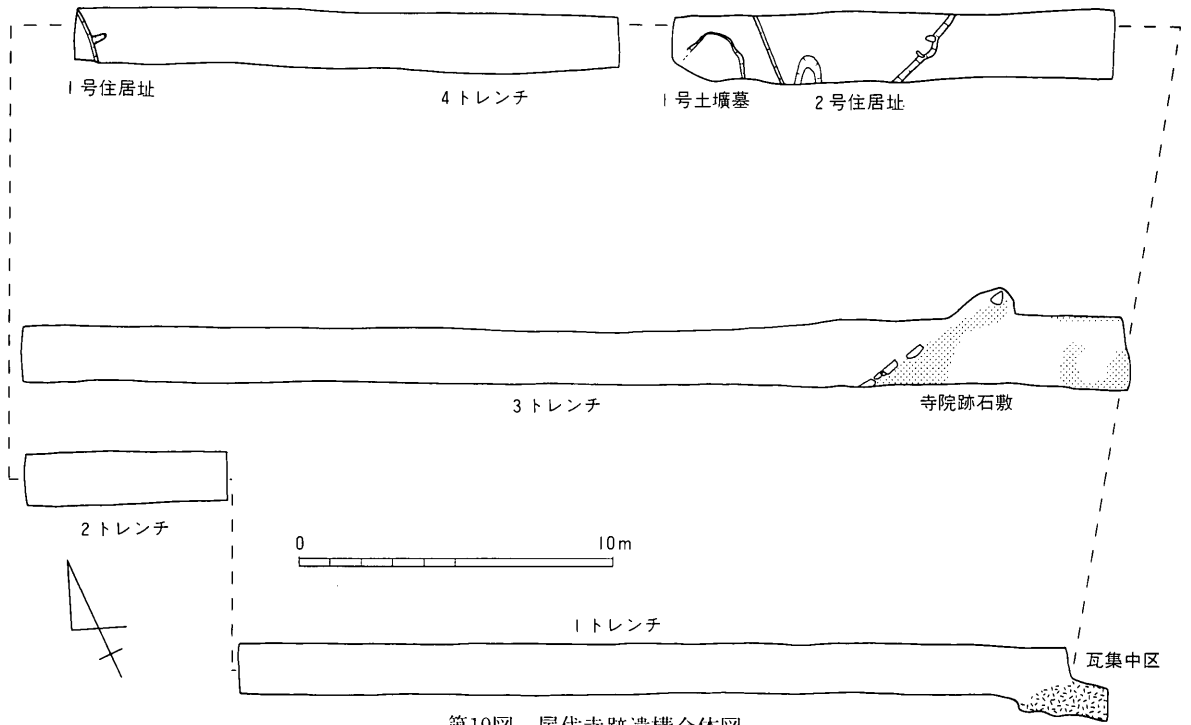
（第20図、図版10~15） 1トレンチ東側から検出された遺構で、大半は調査区外にある。調査部分がわずかなため明らかではないが、基段状の高まりの北辺を検出した。高さは15cmほどで、上面には瓦がまんべんなく散在していたが、1枚から2枚が重なって出土する程度であった。当初この瓦も基段の構築に利用されたと考えたが、出土に規則性がなく、直接基段を構成したとは考えにくい。また、出土した瓦は完形に復元できるものがなく、建物が崩壊して屋根から落ちたとも考えにくい。

出土した瓦の大半はこの集中区からの出土である。軒瓦の出土は小破片がわずかにあっただけで、多くは丸瓦と平瓦である。

軒丸瓦は3点（1~3）出土している。いずれも小破片であり直径などは分からないが、六葉の単弁式蓮花文といわれるもので、周縁は幅1cmの縁をめぐらし、さらに蓮花文との間には幅6~8mmの沈線を巡らせている。裏面には指ナテが観察される。

軒平瓦は2点（4~5）出土しており、いずれも重弧文となる。平瓦の端部を肥大させ、幅5mmから1cmの浅い沈線を2本配しているが、作りは粗雑である。凹面には幅2cmほどの浅い溝状の模骨痕が何本もあり、溝には細かい布目が見られ、凸部はナテ消している。凸部は粗いケズリに近いナテが施されている。

平瓦（6~14）は量的には最も多かったが、完形になるものはない。長さは知ることのできた1点が44cmであり、幅は31~33cmほどを測る。厚さ



第19図 屋代寺跡遺構全体図



第20図 瓦集中区・寺院跡石敷

は1.2~3.5cmと一定しないが、2cm前後が最も多い。凹面は軒平瓦同様に浅い溝状の模骨痕があり、細かい布目が見られる。また、布目のあと部分的にハケを施しているものも見られる。凸面は格子目の叩きをそのまま残すものと、叩きを削り取るものがある。格子目は5mmほどの粗いもので、斜格子と真正な格子の2種が見られる。端部の面取りは凹面だけで、凸面には見られない。

丸瓦(15~17)も平瓦同様完形になるものはない。いわゆる行基葺瓦ぎょうきぶきがわらで、最大幅17cm前後、残存最大長36cmを測る。厚さは1.5cm前後で、凸面にはケズりに近いナデが施されており、叩き痕を残すものはない。凹面は平担で、全面に布目痕を残している。ただ、布を剥離した後、線状に粗いナデを施したものがわずかに見られる。端部の調整は切り離し後無調整のものと、凹面だけ面取りを行い、端部が丸くなるようナデしているものがある。

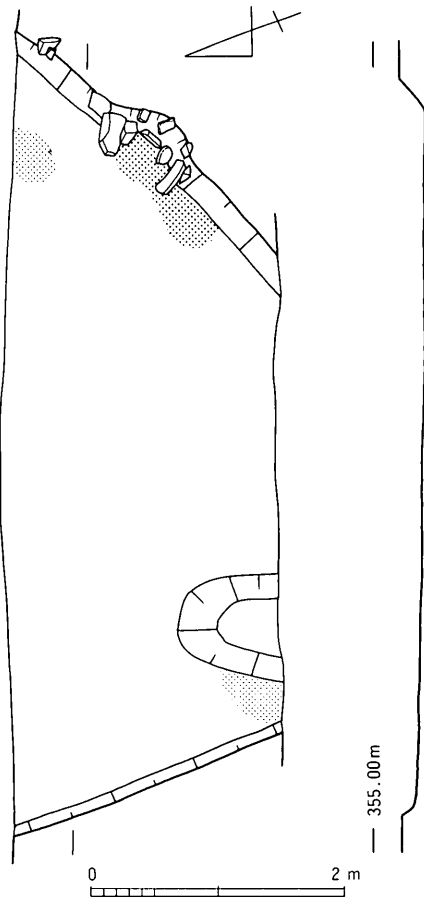
1号住居址

4トレンチの西隅から、東壁のカマド部分が検出された住居址である。壁高は20cmほどで、カマドは50cmほど伸びた煙道と良く焼けた火床が検出されたが、袖はまったく残っていなかった。出土遺物は平安時代と思われる土師器の小破片がわずかにあったにすぎない。

2号住居址

(第21・22図)

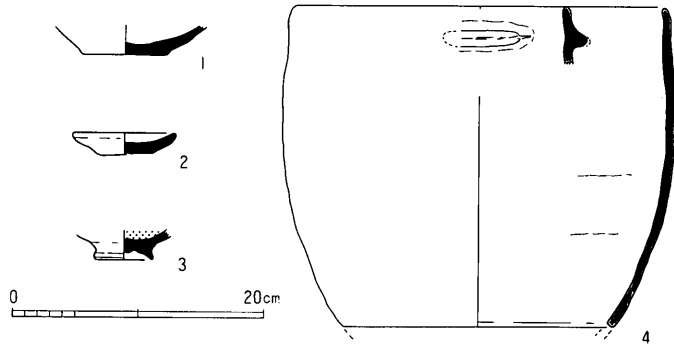
4トレンチ東側から検出された住居址で、東壁と南壁の一部を検出した。壁高は約25cmで、東壁に作られたカマドは、壁面を15cm程掘り込んでおり、袖の部分には角礫が並べられている。火床は明確でなかったが、周辺に焼土や炭化物が散在していた。南側に見られる



第21図 2号住居址

掘り込みは住居址より新しいと思われる。

出土遺物には土師器杯、羽釜などがあるが、量は少ない。1は杯で、内面に赤色顔料の付着が見られる。2はいわゆるかわらけ状で、内面にはススが付着している。3は高台の付く小型の椀で、内面は黒色処理されている。4の羽釜は鏝が把手状になるもので、甕として転用されていると思われる。

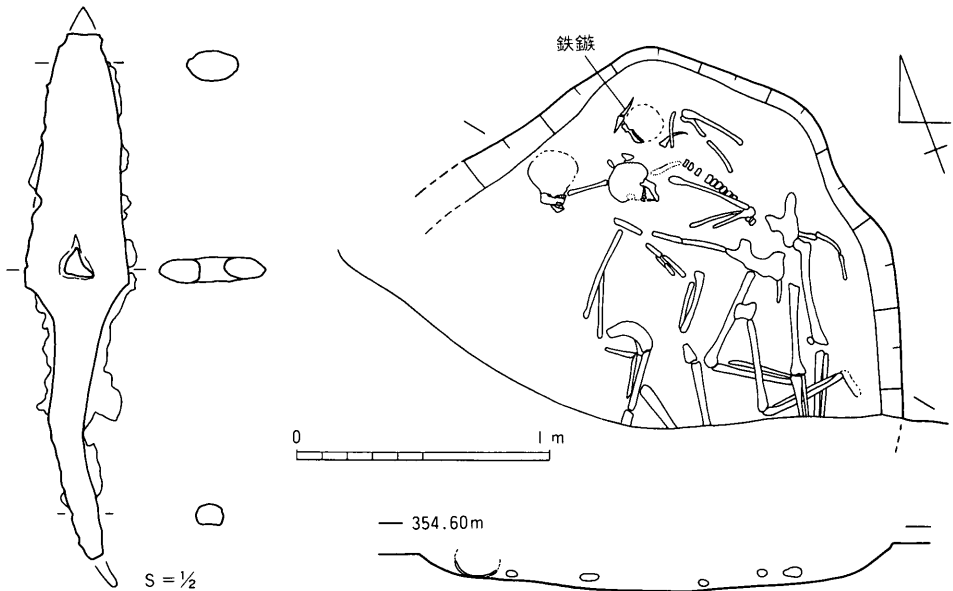


第22図 2号住居址出土遺物

1号土壙墓

(第23図、図版16)

4トレンチの2号住居址西側から検出された土壙墓で、3体の人骨が出



第23図 1号土壙墓及び出土遺物

土している。南側は調査できなかったが、直径2mほどの不整形円形になると思われ、検出面からの深さは約15cmである。人骨はいずれも頭位を北側に持ち、基本的には伸展葬と思われるが、足などはかなり乱れている。また、出土状態から見て3体は同時に埋葬されたと思われる。

東側の頭骨付近からは鉄鏃が出土している。

IV ま と め

今回の調査はトレンチ調査であり、寺院跡の一部を検出したにすぎないが、これまで正確な位置の分からなかった建物の位置を特定できた意義は大きい。

今回の調査で検出された石敷は、昭和37年（1962）の調査で北建物とされた建物の一部であり、この時の調査では二列の地覆石が検出され、その内側には河原石が敷きつめられていた。しかし、内部に礎石・柱掘り方などはなく瓦の出土もほとんどないことから、果たして上屋構造を持っていたのか疑問の残るところである。また、今回の調査では駐車場部分にあたるため調査されなかったが、この北建物の南約8mからは、長径1m前後の礎石を持つ南建物址が検出されている。礎石及び石敷から7間4面の建物が想定されているが、北建物同様周辺からの瓦の出土は少なかったと報告されている。今回瓦がまとまって出土した地点は、わずかな高まりが認められたものの、調査範囲が狭いため建物の存在を確認するまでには至っていない。いずれにしても、礎石周辺から瓦の出土が少なく、まとまって別の位置から出土することは、時間的な差はあるにしても、瓦を持つ建物と持たない建物が存在したか、何らかの理由により集められたものなのか興味深い。

検出された住居址は出土遺物から11世紀が考えられ、住居址の位置からこの時期にはすでに寺は存在しなかったものと思われる。

更埴市内での瓦の出土は、今回調査した屋代寺跡周辺を含め、青木遺跡・社宮司遺跡・五輪堂遺跡・上日向3号窯の5地点が確認されている。

青木遺跡は八幡地区にあり、掘立柱建物址などが検出されており、青木廃寺とも呼ばれている。瓦はかなり広範囲から出土しており、平瓦・丸瓦とも桶巻き作りであるが、凹部には布目の痕跡はなく、指ナデで調整している。したがって桶に直接粘土を貼り付けて作られたものと考えられる。凸部は格子目叩きのあとナデを施すものを主体とするが、平行叩きや「く」の字の蛇行線を重ねた叩きなどもみられる。これらの瓦は奈良時代初頭を下らないと考えられる。また青木遺跡からは瓦塔も出土している。

社宮司遺跡は八幡地区にあり、ほ場整備の際に発掘調査が行われ、9棟の掘立柱建物址が検出された。出土遺物は奈良時代から平安時代のもので、中に平瓦が1点含まれていた。凹面は細かな布目をそのまま残しており、凸面は粗いナデが施されている。

五輪堂遺跡は屋代地区にあり、弥生時代終末から中世に至る大遺跡で、幾度かの調査が行われ、200棟を超える住居址が検出されている。瓦は平安時代の住居址の覆土から出土したもので、軒丸瓦が1点みつまっている。今回調査した屋代寺跡と同様の六葉単弁蓮花文の瓦で、おそらく屋代寺から持ち込まれたものと思われる。

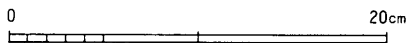
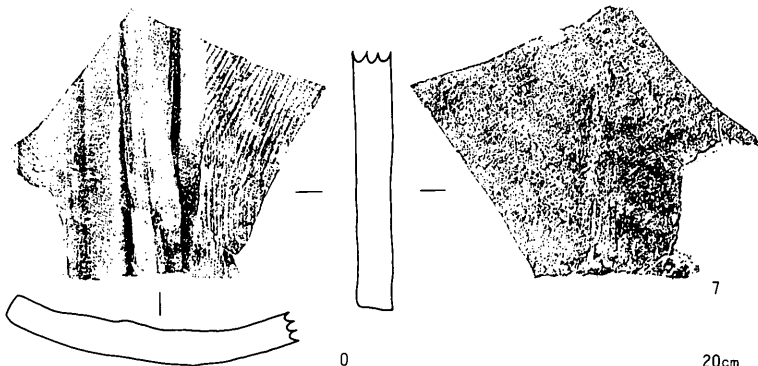
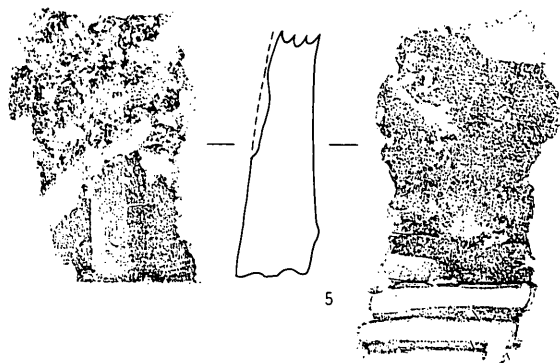
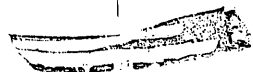
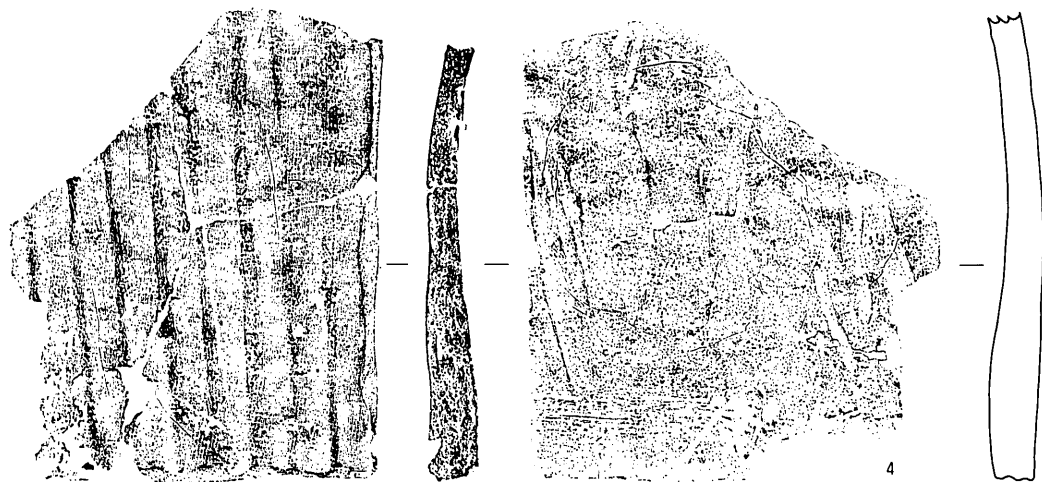
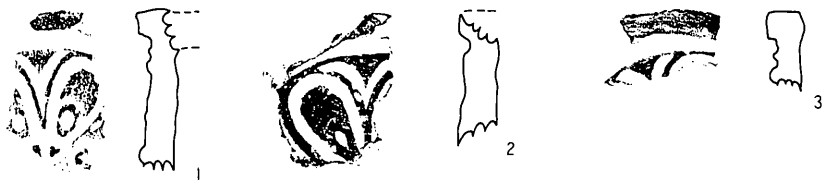
上日向3号窯は大田原地区にある古窯址3基のうちの1基である。東斜面に作られた全長6mの登窯で、奈良時代中頃の什器を中心に多量の遺物が出土している。瓦はいずれも平瓦で、十数点出土している。凹面には布目の痕跡はなく、比較的ていねいなナデで仕上げている。凸面は平行叩きのものと、叩きを行わずナデを施すものがある。端部の面取りが行われているものはない。

以上瓦を出土した遺跡の概略であるが、いずれも奈良時代以前に考えられている。社宮司遺跡・五輪堂遺跡では数片の出土であり、他から持ち込まれた可能性が強い。上日向3号窯の瓦は青木遺跡の瓦と比較すると、凸面の叩きが平行叩きと格子叩きの違いはあるが、その他の点では共通しており、また青木遺跡からもわずかではあるが平行叩きの瓦が出土していることから、青木遺跡の瓦の一部を焼いていた可能性がある。上日向には未確認の窯も多数存在するものと思われ、今後の調査により明らかになる。

青木遺跡では瓦の出土量から見て、瓦を持つ建物が存在した可能性は極めて高い。今までの調査でその位置を特定することはできないが、当該地は東山道の越後に至る支道が通っていたとされる地域であり、青木遺跡か、青木遺跡に近接する稲村遺跡を想定できる。

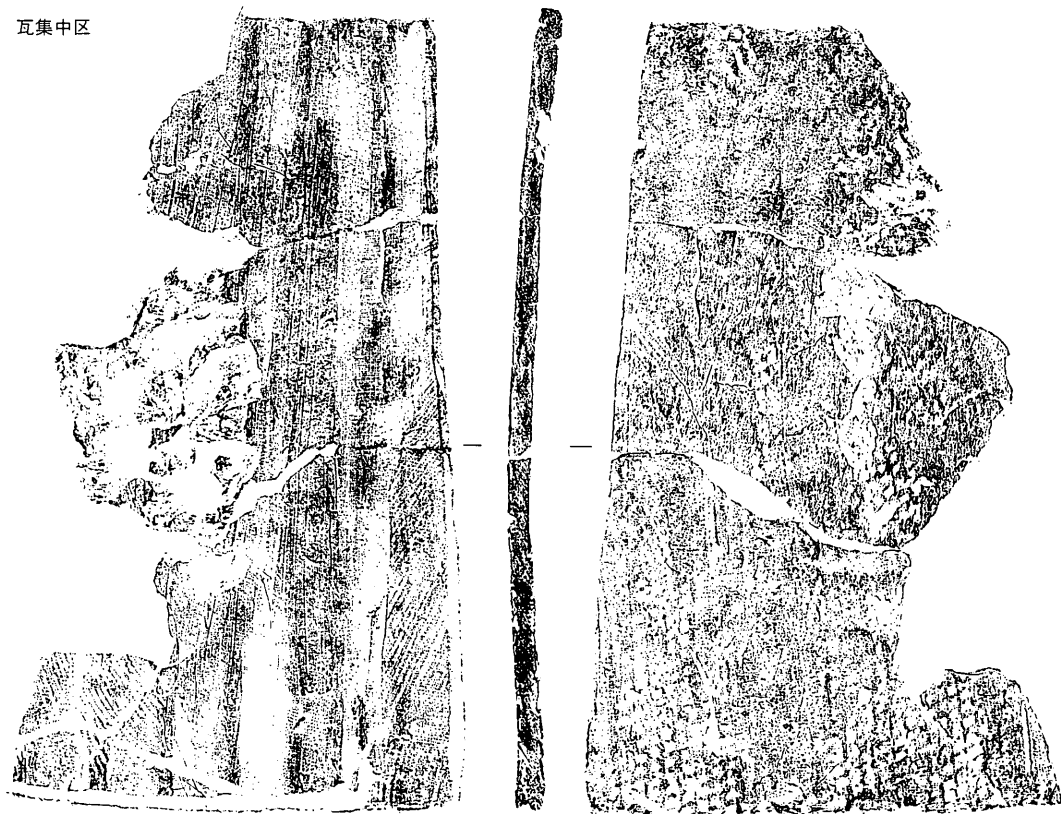
屋代寺跡は、『倭名鈔』所載の埴科郡屋代（也之呂）郷内に存在した寺であることは確実である。現在の屋代地籍は、慶長16年（1611）北国街道改修に併せて新しく宿が設定されたもので、船山郷に当たるとされている。本来の屋代郷は市河文書に見られる郷内の字名から、城ノ内遺跡あたりから東にあったと考えられており、今回の調査地点も含まれることになる。したがって、従来から考えられているように、今回の調査地点が屋代寺跡であることは間違いのないと思われる。

瓦集中区

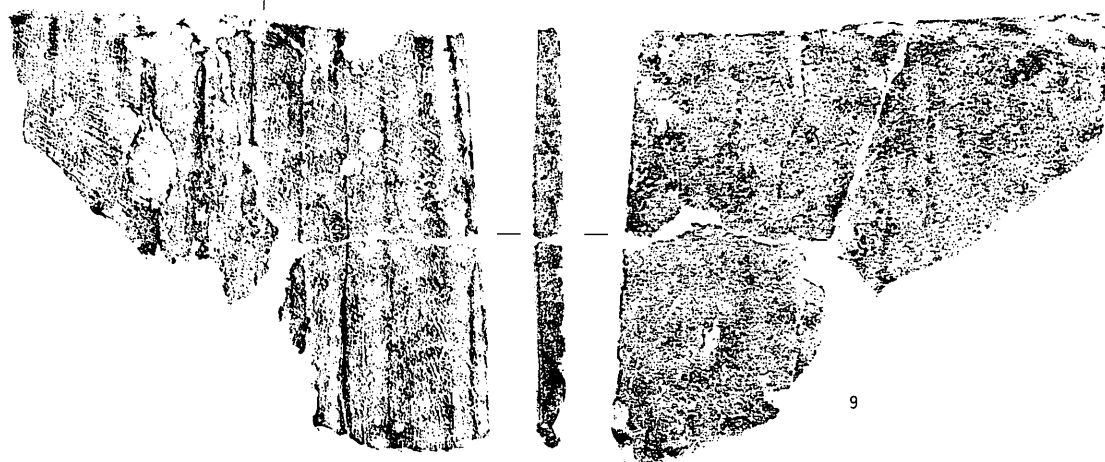
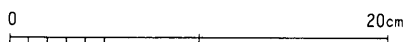


图版11

瓦集中区



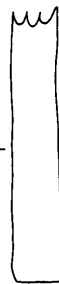
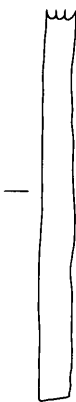
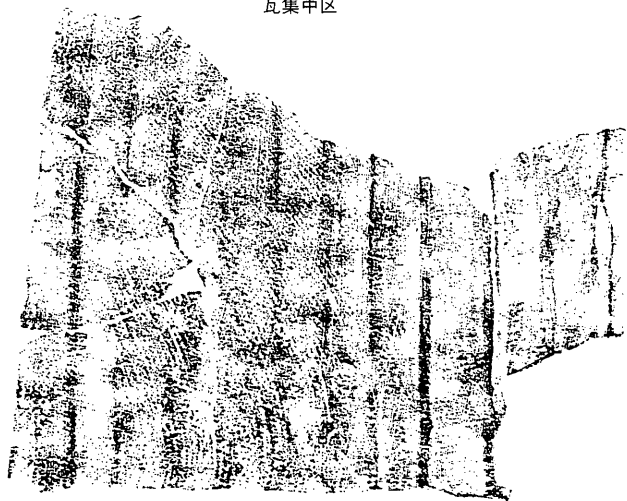
8



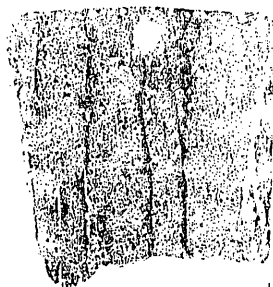
9

瓦集中区

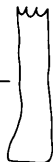




13



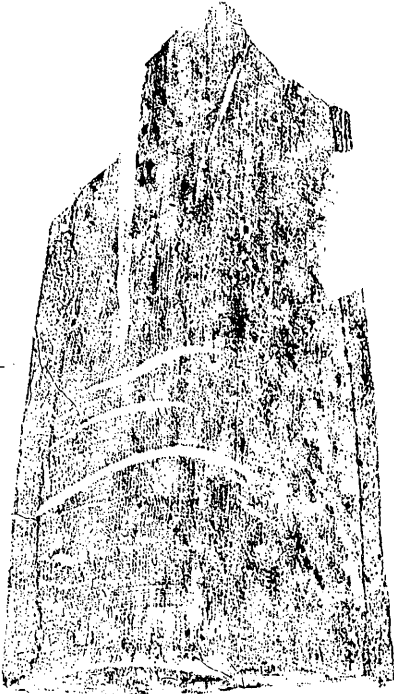
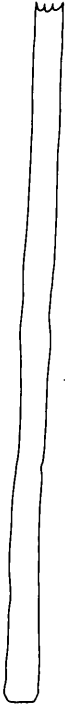
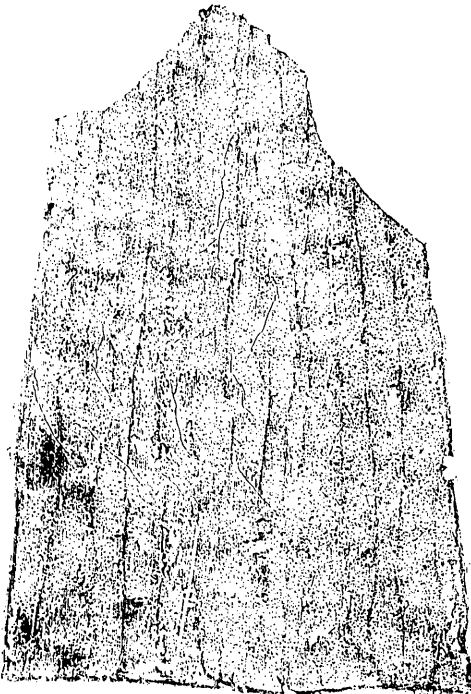
14



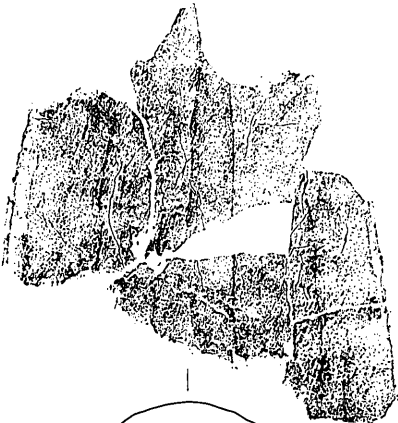
15



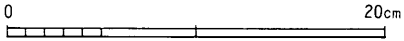
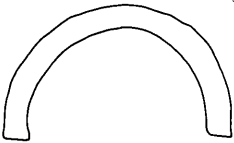
瓦集中区



16



17





瓦集中区（北より）



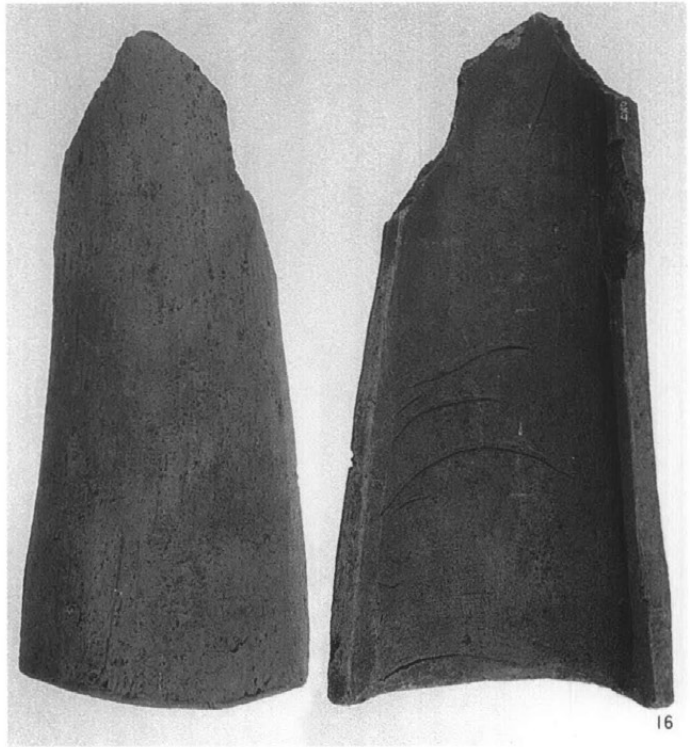
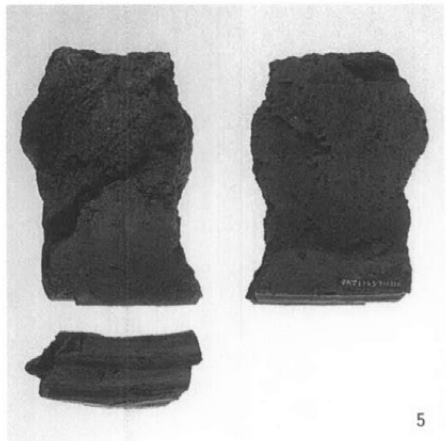
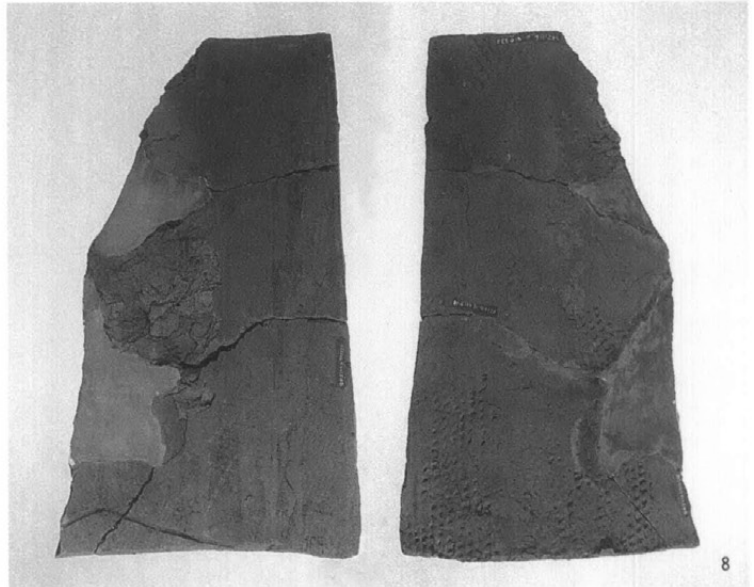
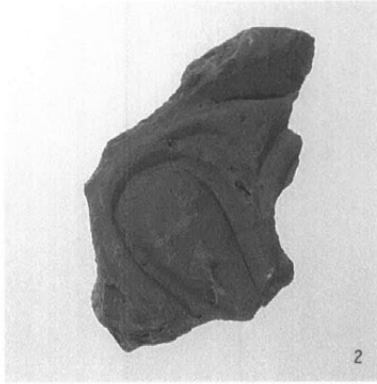
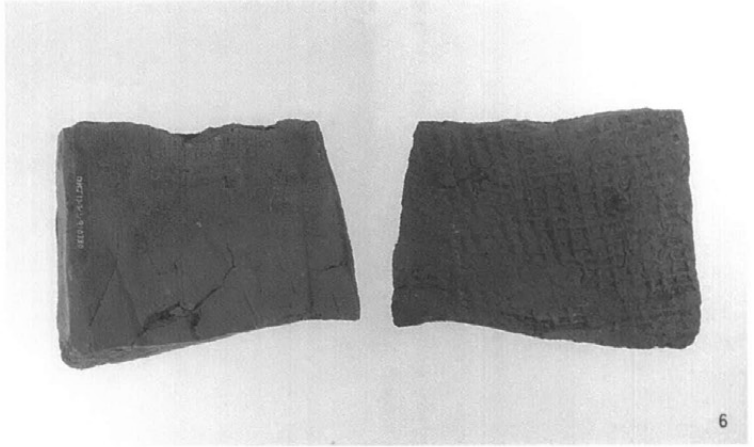
瓦集中区調査風景（東より）



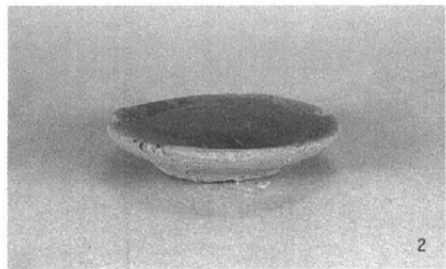
寺院跡石敷



1号土墳墓 (西より)



瓦集中区



2号住居址

8 森將軍塚古墳 発掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 史跡森將軍塚古墳もりしょうぐんづか（市No.19 調査記号M10）
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字森字大穴山3122-28 他
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝史跡森將軍塚古墳保存整備（第10年次）
更埴市
- 4 調査内容 周辺部発掘調査（約50m²）・整理調査
- 5 調査期間 平成2年7月30日～同年8月18日（14日間）
- 6 調査費用 総事業費50,000,000円（国庫50％・県費15％補助）
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会（森將軍塚古墳発掘調査団）
団長 岩崎卓也 副団長 森鳴稔
調査指導 木下正史 関根孝夫 松浦宥一郎 小林秀夫 他
担当者 矢島宏雄 更埴市教育委員会
調査員 山根洋子 更埴市教育委員会
竹田真人 筑波大学学生
参加者 井口賢一 市川すず子 岩佐久子 小林昌子
佐々木佳子 高野智司 富沢トシ 富沢豊延
中村久美子 林宏一郎 宮入由枝 宮崎恵子 吉原一孝
- 8 種別・時期 古墳（全長100m前方後円墳）古墳時代前期
- 9 遺構・遺物 組合式箱形石棺 1基
出土遺物＝埴輪片 コンテナ1箱

II 調査内容

本事業最後の発掘調査となった今年度は、史跡内の6号墳から2号墳にかけての尾根部分で小古墳の有無を確認することを目的に実施した。

尾根筋や地形の高まりに、幅50cmのトレンチを設けて調査を行ったが、ほとんどはすぐに地山ないし岩盤となり、古墳が存在しないことが明らかとなった。

6号墳付近のトレンチ内に、小さな石英閃緑岩の板石が直立している地点が検出され、周辺を拡張したところ、長軸75cm×短軸32cmの組合式箱形石棺が検出された。

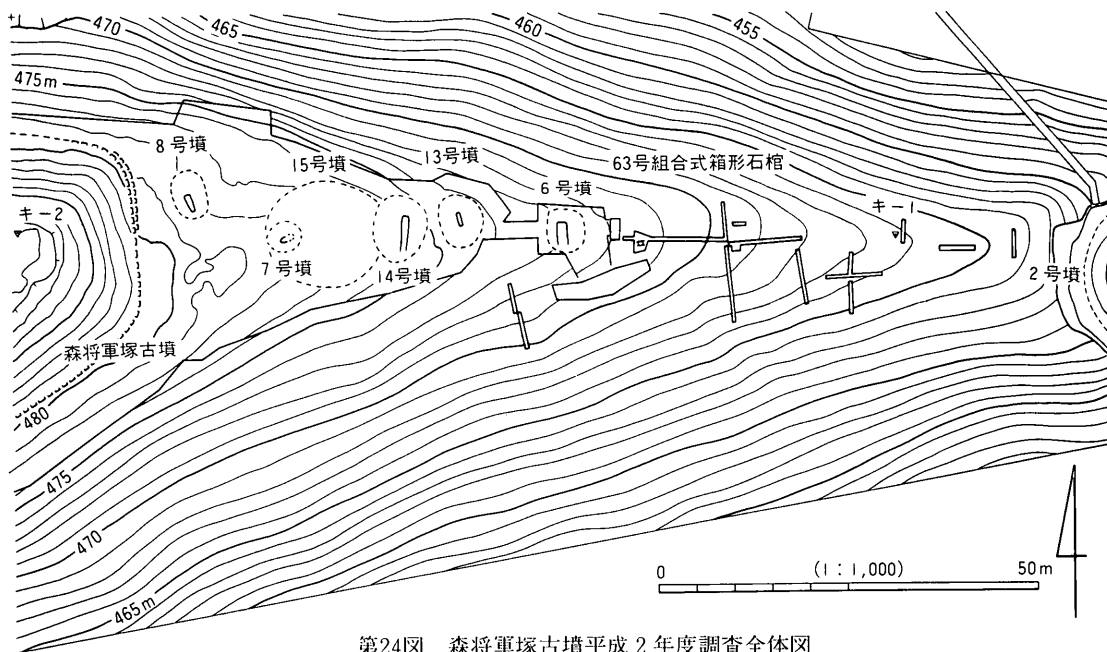
昭和56年(1981)から始まった発掘調査は、墳丘裾テラスなどからの予想外の小型埋葬施設群の発見に始まり、最終の本年度調査も組合式箱形石棺の調査で終了することとなった。

III 保存整備事業

整備工事は、便所・説明板などの便益施設の設置を行い、遺構整備工事は4号埴輪棺の復原を実施した。

説明板は文字をできるだけ少なくし、イラスト・写真を多用して8基設置した。

埴輪棺の復原は、来年度に予定されている墳丘に並べる埴輪の試験施行の意味もあり、埴輪棺の棺身を検討されていた磁器製で製作した。



第24図 森將軍塚古墳平成2年度調査全体図



埴輪棺整備・説明板設置



便所の建築



63号石棺



発掘調査説明会

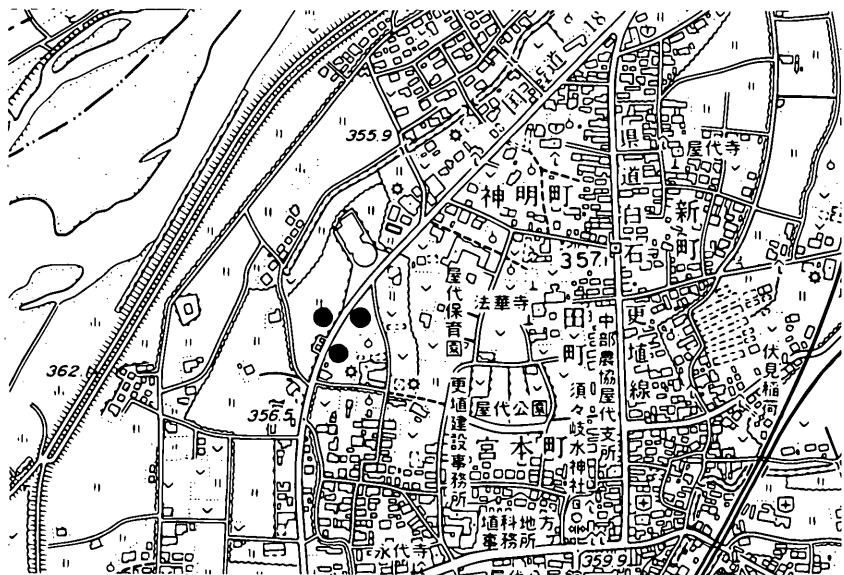
9 琵琶尻遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 びわじり 琵琶尻遺跡
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字粟佐字琵琶尻
土地所有者 建設省
- 3 原因及び 公共事業＝国道18号線拡幅
事業者 建設省
- 4 調査内容 試掘調査（トレンチ3箇所）
- 5 調査期間 平成2年6月4日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 水田址＝近世
- 9 遺構・遺物 水田址
遺物 なし

II ま と め

バックホーにより、2 m50cm程掘り下げた。上部は近世の水田と思われる灰色の粘土が2層あり、その下は厚い粘土層となった。約2 m30cmで泥炭に近い粘土層となり、埋蔵文化財は確認されなかった。



第25図
調査位置図
(1:10,000)

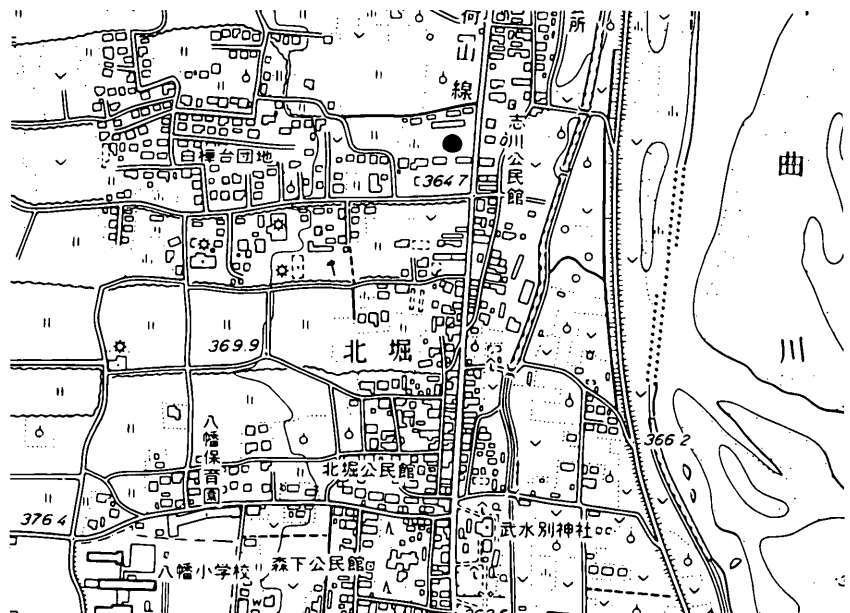
10 横まくり遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 横まくり遺跡 (市No85-10)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字八幡字柳田2178-5
土地所有者 株式会社川本第一製作所
- 3 原因及び 民間事業＝倉庫・事務所建設 (1,468㎡)
事業者 株式会社川本第一製作所
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ2箇所)
- 5 調査期間 平成2年9月28日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

バックホーにより2箇所のトレンチを設定し、1.8mまで掘り下げたが、埋蔵文化財は確認されなかった。



第26図
調査位置図
(1:10,000)

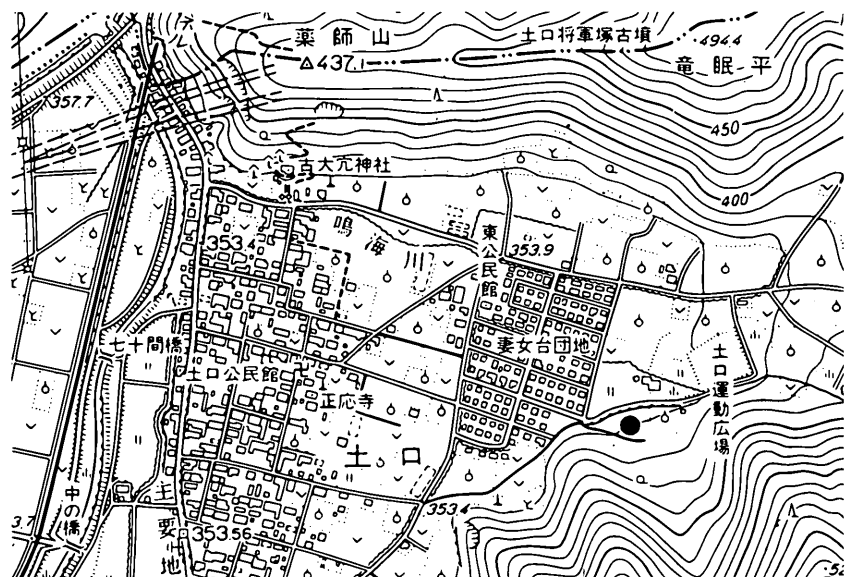
11 埜遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ^{あわら} 埜遺跡 (市No.200)
- 2 所在地及び 長野県更埜市大字土口字築地152
土地所有者 西沢総合土地株式会社
- 3 原因及び 民間事業=宅地造成 (1,157m²)
事業者 西沢総合土地株式会社
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ3箇所)
- 5 調査期間 平成2年10月11日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埜市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 -
- 9 遺構・遺物 なし

II まとめ

バックホーにより3箇所の試掘坑を設定して調査を行ったが、耕作土の下は角礫を多量に含んだ黄褐色土となり、埋蔵文化財は確認されなかった。かなりの傾斜地であるため、集落址はないものと思われる。



第27図
調査位置図
(1:10,000)

12 更埴条里水田址 試掘調査

I 調査の概要

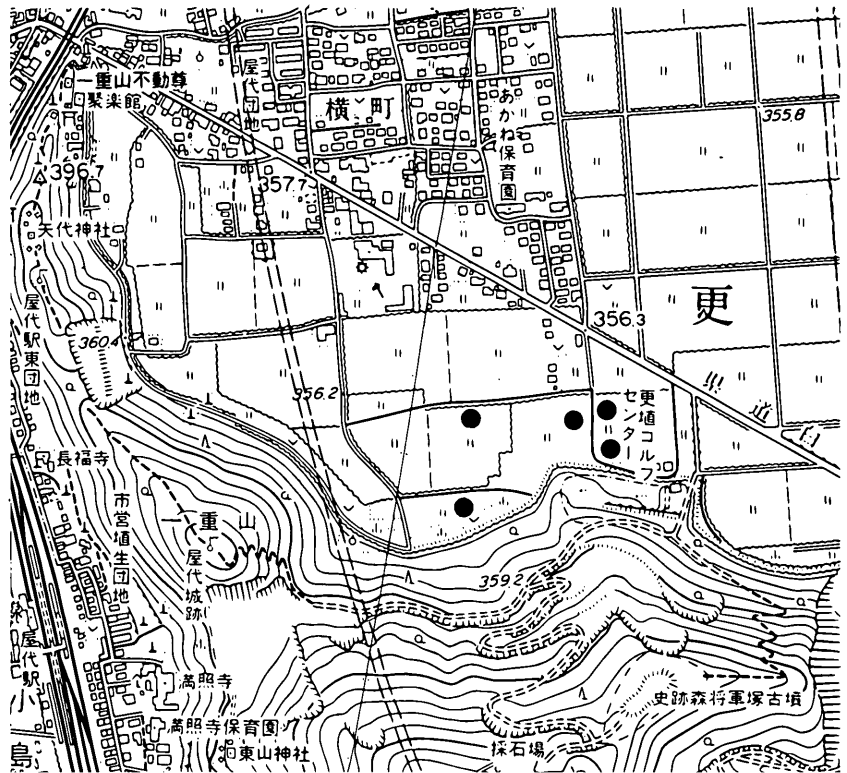
- 1 調査遺跡名 こうしよくじょうり 更埴条里水田址 (市No.29)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字屋代字清水294他
長野県
- 3 原因及び
事業者 公共事業＝県立歴史館建設 (12,000㎡)
長野県 (文化課)
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 5箇所)
- 5 調査期間 平成2年10月11・12日
- 6 調査費用 92,700円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会
調査指導 白居直之 (財)長野県埋蔵文化財センター
担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 水田址・遺物包含層＝時期詳細不明
- 9 遺構・遺物 水田址 一面以上
土器片 コンテナ1箱

II ま と め

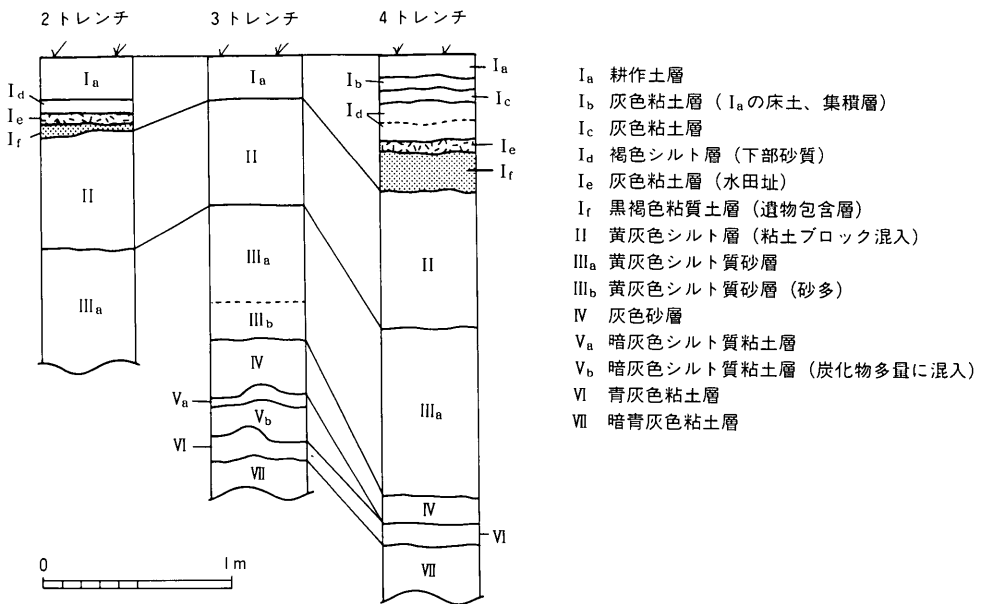
バックホーにより最高2 m50cmまで掘り下げた。1・5トレンチでは埋蔵文化財は確認されなかったが、2・4トレンチでは現在の水田面の下にわずかな砂層を挟んで水田址が確認されている。砂層は、更埴条里水田址を厚く覆う砂層と同じものと考えられることから、水田址は平安時代が想定される。水田址の下には、10～20cmの厚さを持つ黒褐色の粘質土があり、遺物を含んでいる。遺物は風化が激しく定かではないが、古墳時代と弥生時代中期の土器を含んでいるものと思われる。

3トレンチでは、地表下約1 m70cmから砂層に覆われた畦畔状の盛り上がりが見出された。弥生時代の水田址の可能性が考えられたため、プラント・オパール分析を行ったが、検出されなかった。

平成3年度に発掘調査を実施し保護にあたる。



第28図
調査位置図
(1 : 10,000)



第29図 屋代清水遺跡土層断面図

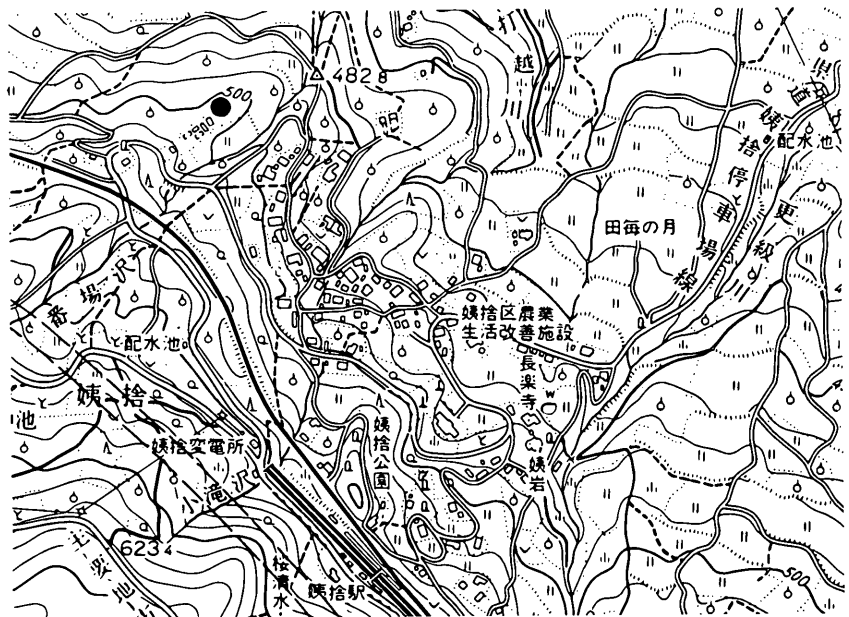
13 上人塚遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 しょうにんづか 上人塚遺跡 (市No.66)
- 2 所在地及び しょうにんづか 長野県更埴市大字八幡字上人塚4316-1
土地所有者 宮坂民夫
- 3 原因及び しょうにんづか 民間事業＝ほ場整備 (9,051m²)
事業者 宮坂民夫
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 1 箇所)
- 5 調査期間 平成 2 年10月31日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 一
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

バックホーにより、深さ約60cmまで掘り下げたが、10～20cm程の耕作土の下は地山層となり、埋蔵文化財は確認されなかった。



第30図
調査位置図
(1:10,000)

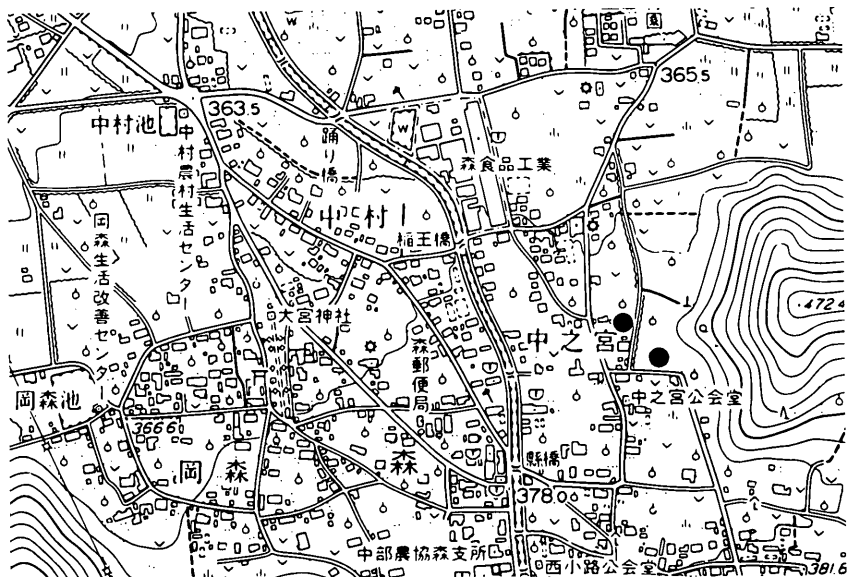
14 中ノ宮遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 なかのみや 中ノ宮遺跡 (市No.15)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字森字北中之宮2453他
土地所有者 有限会社キザキ商事
- 3 原因及び 民間事業＝宅地造成 (1,854㎡)
事業者 有限会社キザキ商事
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 2 箇所)
- 5 調査期間 平成 2 年11月 9 日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 土壌 1基＝平安時代?
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

地皮下25～30cmに埋蔵文化財包含層と考えられる土層が確認された。当該工事は1m前後の盛り土を行って造成するものであり、直接遺跡に影響を与える可能性は少ないと思われる。



第31図
調査位置図
(1:10,000)

15 唐崎遺跡 試掘調査

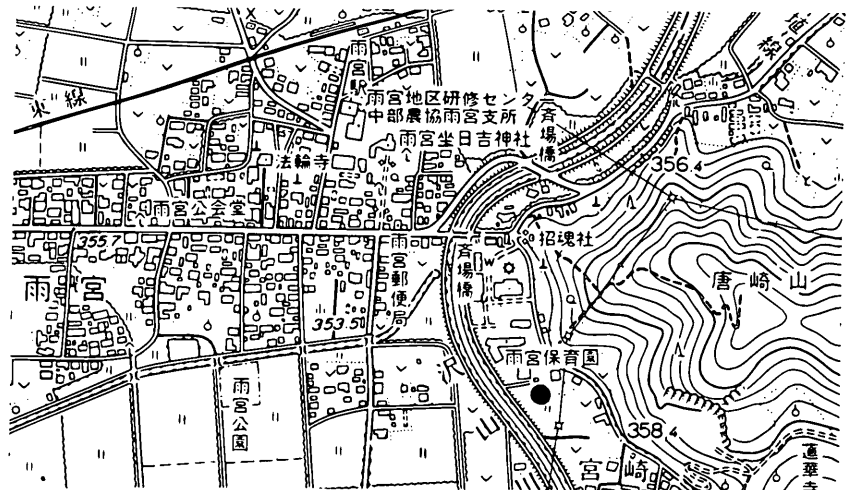
I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 からさき 唐崎遺跡 (市No.34)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字雨宮字唐崎
有限会社中島製作所
- 3 原因及び
事業者 民間事業=工場建設 (1,143m²)
有限会社中島製作所
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 2箇所)
- 5 調査期間 平成2年11月13日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 不明
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

2箇所を試掘坑を設定し、調査を行った結果、現地表下50~140cmに埋蔵文化財包含層と思われる土層が確認されたが、遺物などの出土はなかった。

工事に当たっては、すでに70cmほどの盛り土があり、基礎が包含層にまで達しないため、影響は少ないものと思われる。



第32図
調査位置図
(1:10,000)

16 更埴条里水田址 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こうしよくじょうり 更埴条里水田址 (市No.29)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字屋代字反町484
土地所有者 有限会社キザキ商事
- 3 原因及び 民間事業＝宅地造成 (1,111m²)
事業者 有限会社キザキ商事
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 2 箇所)
- 5 調査期間 平成 2 年11月30日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

土留壁の工事の際に立会調査を行ったが、現水田面から50cm程の掘削であるため、工事部分から埋蔵文化財は確認されなかった。



第33図
調査位置図
(1:10,000)

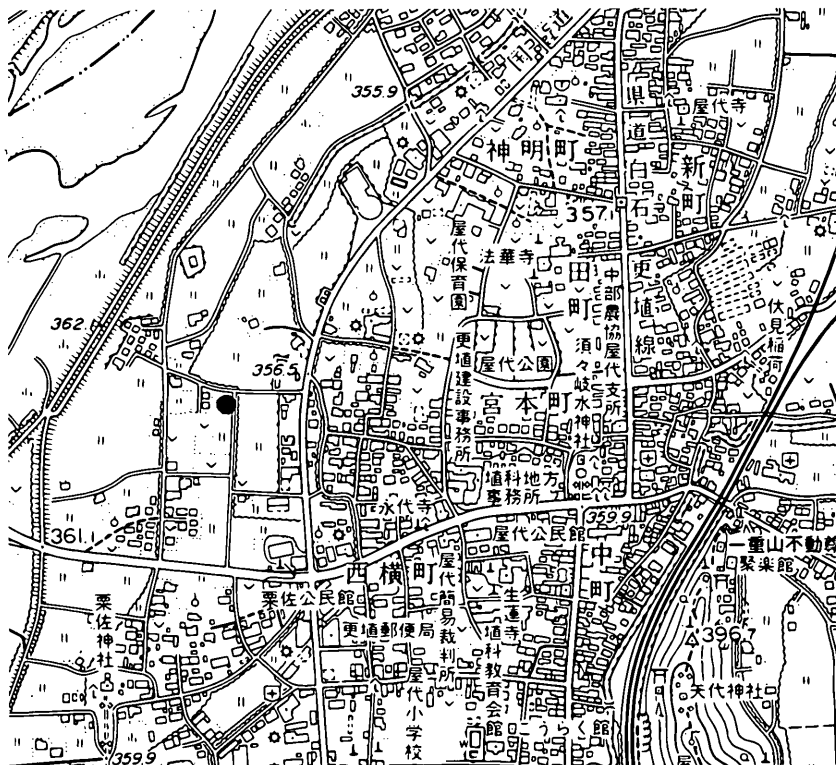
17 諏訪南沖遺跡・琵琶尻遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 すわみなみおき 諏訪南沖遺跡・びわじり 琵琶尻遺跡 (市No28-9・10)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字粟佐字諏訪南沖・琵琶尻
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業＝都市計画道路建設
事業者 更埴市
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ1箇所)
- 5 調査期間 平成2年12月13日
- 6 調査費用 36,050円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

バックホーにより2箇所の試掘坑を設定して調査を行った。調査地点が宅地であったため、すでに攪乱されており、遺構等埋蔵文化財の検出はなかった。



第34図
調査位置図
(1:10,000)

18 北野遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 きたの北野遺跡 (市No.31-18)
- 2 所在地及び きたの長野県更埴市大字雨宮字北野158-1
土地所有者 長野県
- 3 原因及び 公共事業=土口バイパス建設 (10,000㎡)
事業者 更埴建設事務所
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ 3箇所)
- 5 調査期間 平成2年12月13日
- 6 調査費用 36,050円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 水田址=中世～近世
- 9 遺構・遺物 近世陶器

II まとめ

3箇所の試掘坑を設定し、試掘調査を実施した結果、1トレンチでは遺構の存在は確認できなかった。しかし2・3トレンチでは現水田面より約40cm下に水田址と思われる灰褐色の粘土層が確認され、さらに20cm程下にも同様の土層が観察できた。近世陶器の破片が出土していることから、近世の水田址が存在するものと思われる。

工事の実施に当たっては、発掘調査が必要となる。



第35図
調査位置図
(1:10,000)

19 屋代遺跡群 試掘調査

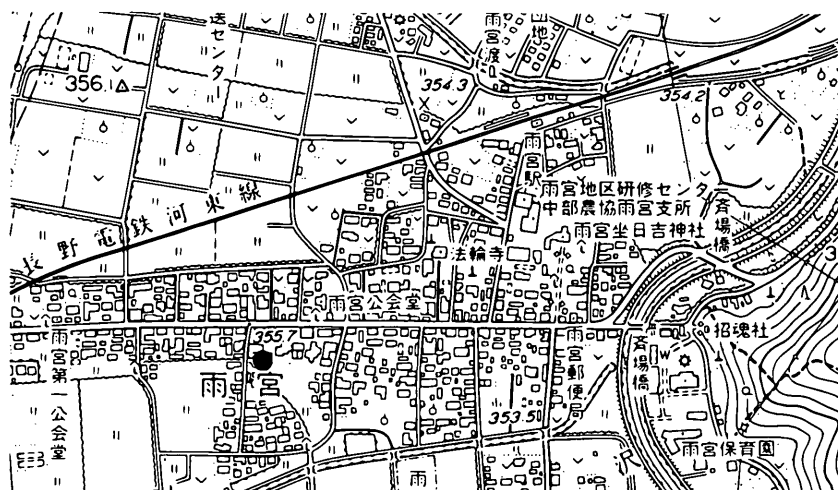
I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 屋代遺跡群 (市No.31)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字雨宮字天野158-1
土地所有者 有限会社共栄開発
- 3 原因及び 民間事業＝宅地造成 (1,388m²)
事業者 有限会社共栄開発
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ2箇所)
- 5 調査期間 平成3年1月21日
- 6 調査費用 重機事業者負担
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 水田址＝平安時代
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

バックホーにより1m50cmまで掘り下げて調査を行った結果、現地表面から40cm程下に水田址と思われる灰褐色の粘土層が検出された。その下は暗褐色土が厚く堆積しており、遺物の出土はなかった。

当該工事は約80cmの盛土を行い実施するものであり、直接埋蔵文化財に影響をあたえることはないと思われる。



第36図
調査位置図
(1:10,000)

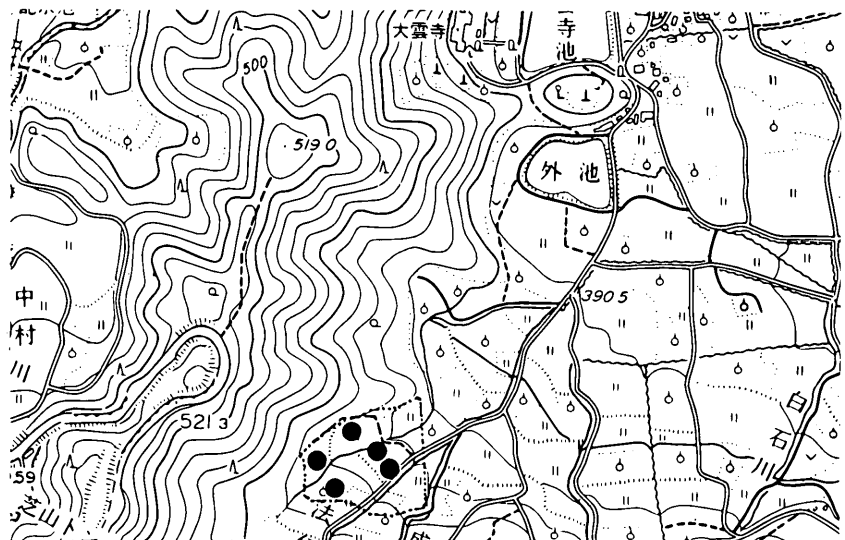
20 赤坂遺跡 試掘調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 あかさか 赤坂遺跡 (市No.86)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字八幡字赤坂
更埴市
- 3 原因及び
事業者 公共事業=工業団地建設 (15,450㎡)
更埴市
- 4 調査内容 試掘調査 (トレンチ5箇所)
- 5 調査期間 平成3年3月8日
- 6 調査費用 41,200円
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 —
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

バックホーにより試掘坑を5箇所設定し、調査を行った。以前水田の工事を行った際、土器が出土したと伝えられていたが、表土の下は粘土層が堆積しており、さらに下層は植物遺体を含む泥炭層となり、埋蔵文化財は確認されなかった。



第37図
調査位置図
(1:10,000)

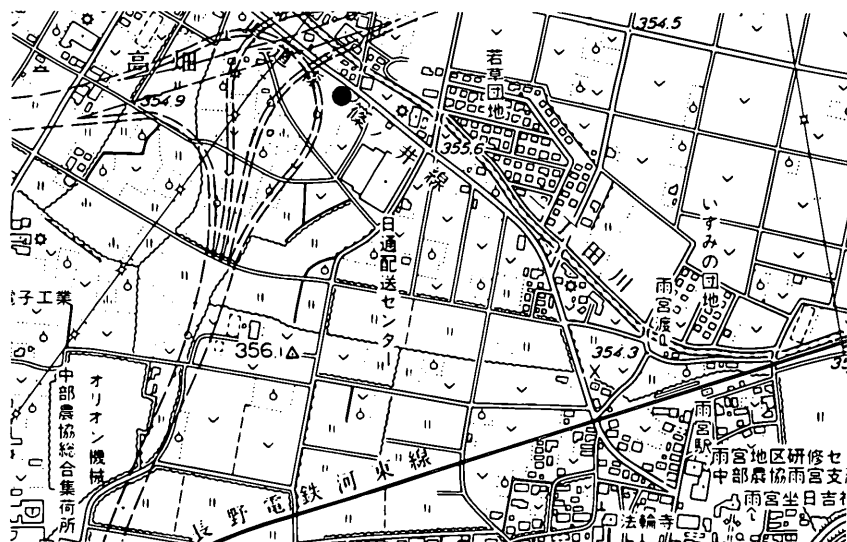
21 窪河原遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 くぼがわら 窪河原遺跡 (市No.31-17)
- 2 所在地及び
土地所有者 長野県更埴市大字雨宮字窪河原638-2他
中部電力株式会社
- 3 原因及び
事業者 民間事業=送電用鉄塔建設 (128m²)
中部電力株式会社
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年4月4・9日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

鉄塔の脚の部分を掘り下げた際、立会調査を行った。約4m掘り下げたが上部2.3m程は軽石を含む砂層に覆われており、その下に水田址と思われる灰褐色の粘質土が20cm程見られた。さらに1m下にも同様の土層が観察された。水田址の時代を判断できるような遺物は出土していない。



第38図
調査位置図
(1:10,000)

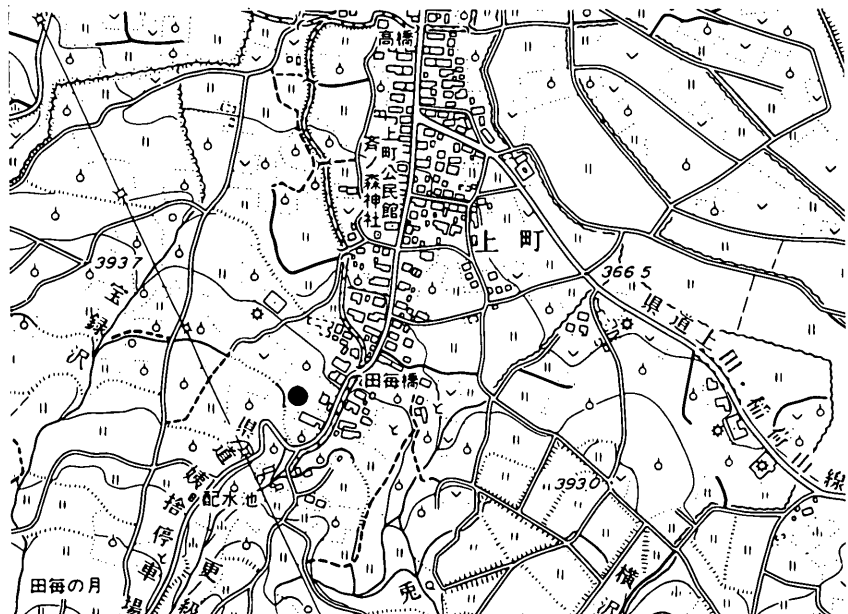
22 舞台遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 ぶたい 舞台遺跡 (市No.107)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字八幡字八日市場3684-1
土地所有者 有限会社アカサワ
- 3 原因及び 民間事業＝宅地造成 (2,268㎡)
事業者 有限会社アカサワ
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年7月18日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 佐藤信之
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

以前に宅地化されている部分であり、すでに削平されていて今回の調査では、遺構・遺物の検出はなかった。



第39図
調査位置図
(1:10,000)

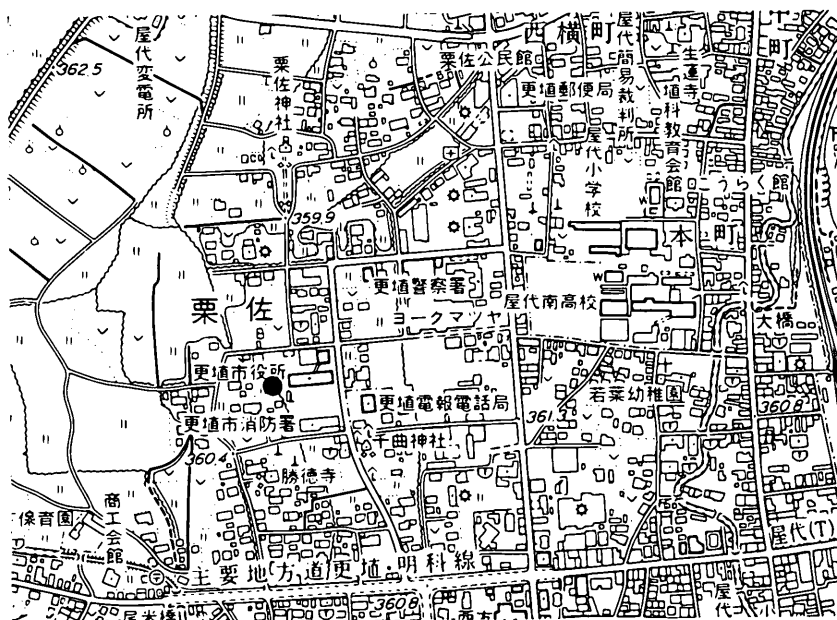
23 南沖遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 みなみおき 南沖遺跡 (市No.28-2)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字杭瀬下84
土地所有者 更埴市
- 3 原因及び 公共事業＝駐車場建設 (860m²)
事業者 更埴市
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年9月28日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

駐車場は現在の水田面に盛土をして工事を行うものであり、立会調査では遺跡の有無について確認することはできなかった。



第40図
調査位置図
(1:10,000)

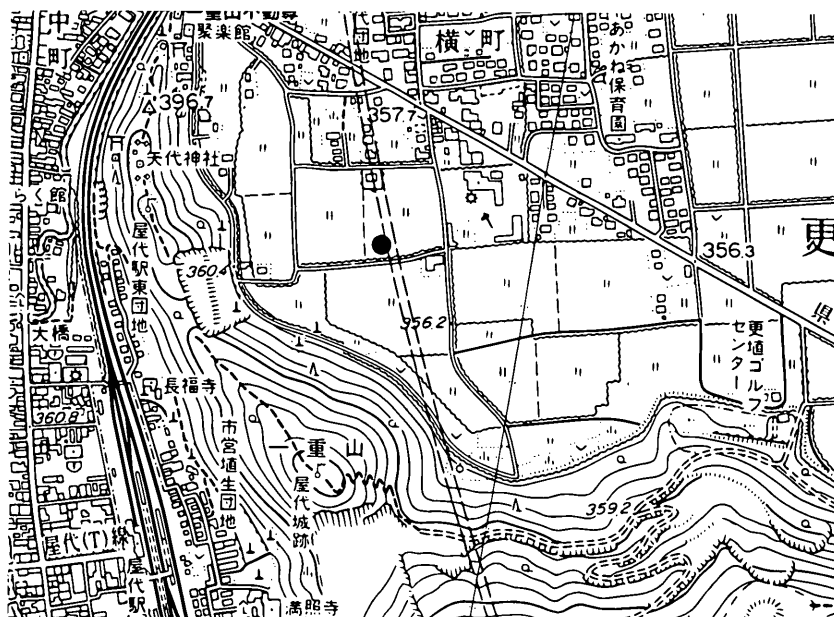
24 更埴条里水田址 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 こうしょくじょうり 更埴条里水田址 (市No.29)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字屋代字内田160他
土地所有者 戸矢崎雅彦
- 3 原因及び 民間事業=アパート建設 (1,253㎡)
事業者 戸矢崎雅彦
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年10月2日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

土留壁の工事の際、立会調査を行ったが、現水田面から50cm程の掘削であるため、工事部分で埋蔵文化財は確認されなかった。



第41図
調査位置図
(1:10,000)

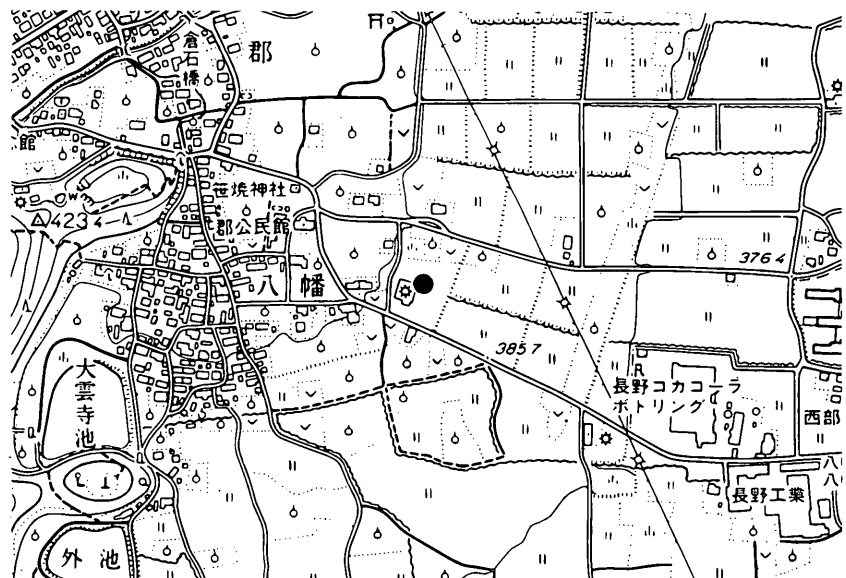
25 北なめり石遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 北なめり石遺跡 (市No.85-13)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字八幡3233他
土地所有者 宮後電子株式会社
- 3 原因及び 民間事業=工場建設 (1,039㎡)
事業者 宮後電子株式会社
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年10月6日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 平安時代
- 9 遺構・遺物 須恵器片 1点

II ま と め

工場敷地造成工事の際、すでに埋蔵文化財包含層が削られていたため、当該工事による破壊はなかった。しかし、今後東側を造成する際には調査が必要になる。



第42図
調査位置図
(1:10,000)

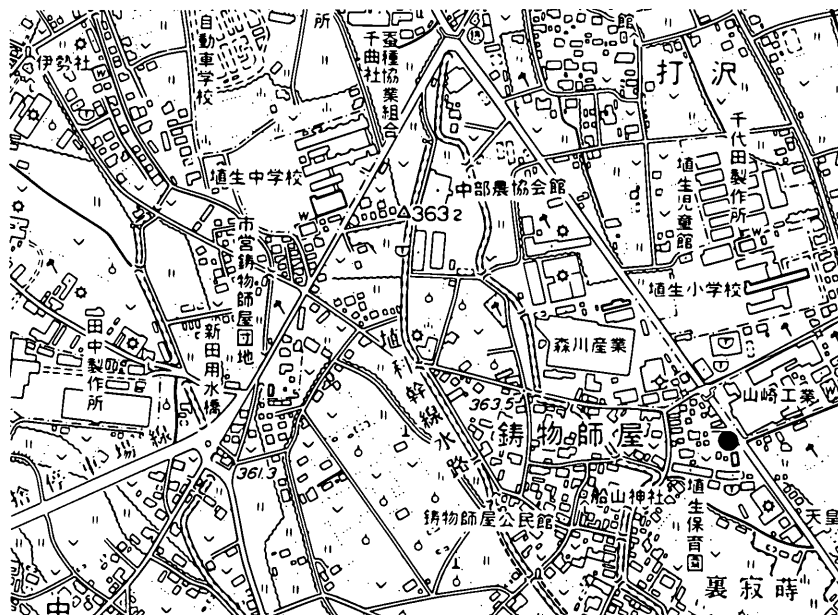
26 中島遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 なかしま 中島遺跡 (市No.175)
- 2 所在地及び なかしま 長野県更埴市大字寂蒔1034-2
土地所有者 山本興業株式会社
- 3 原因及び 民間事業=共同住宅建設 (870㎡)
事業者 山本興業株式会社
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成2年12月19日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

以前に造成された土地であり、工事による掘り下げも40cm程と浅いため、埋蔵文化財は確認されなかった。



第43図
調査位置図
(1:10,000)

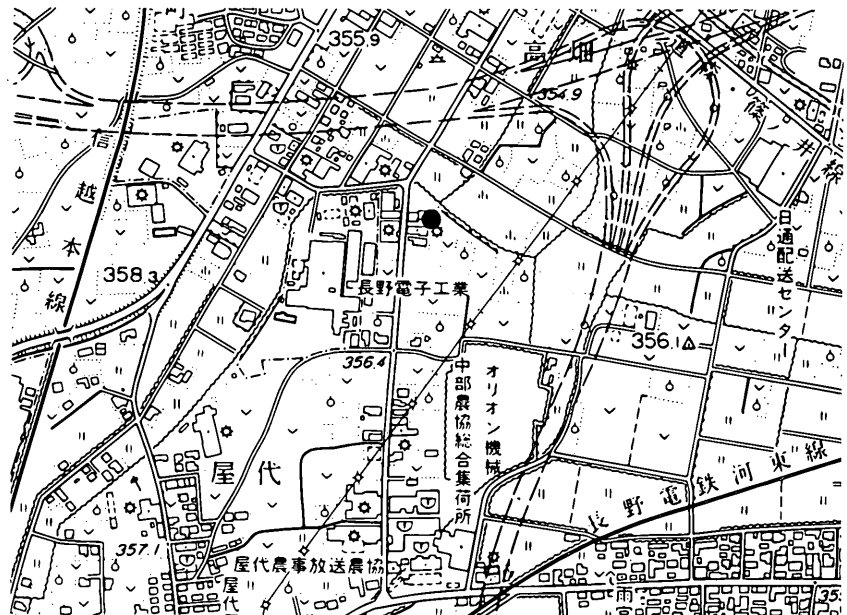
27 城ノ内遺跡 立会調査

I 調査の概要

- 1 調査遺跡名 しろのうち 城ノ内遺跡 (市No.31-7)
- 2 所在地及び 長野県更埴市大字屋代字城ノ内1343-5
土地所有者 中沢智明
- 3 原因及び 民間事業=住宅建設 (1,283㎡)
事業者 中沢智明
- 4 調査内容 立会調査
- 5 調査期間 平成3年3月22日
- 6 調査費用 なし
- 7 調査主体者 更埴市教育委員会 担当者 矢島宏雄
- 8 種別・時期 ー
- 9 遺構・遺物 なし

II ま と め

個人住宅の増築工事であり、掘削は40cm程であったため、埋蔵文化財は確認されなかった。



第44図
調査位置図
(1:10,000)

更埴市埋蔵文化財調査報告書 -平成2年度-

発行日 平成3年3月31日

発行 更埴市教育委員会

〒387 長野県更埴市大字杭瀬下84番地

TEL (0262) 73-1111

印刷 信毎書籍印刷株式会社

〒381 長野県長野市西和田470

TEL (0262) 43-2105
